

## 横浜みどりアップ計画[2019-2023] 5 か年の 実績報告について【情報提供】

### 1 事業の趣旨

横浜みどりアップ計画につきましては、2009 年度から、横浜みどり税を財源の一部として活用させていただきながら、緑の保全・創出に向けた様々な事業・取組を推進しています。

また、2024 年 4 月からは 4 期目となる新たな 5 か年計画[2024-2028]に取り組んでいます。

このたび、2019 年度から 2023 年度までの 5 か年を振り返り、取組の成果をまとめたリーフレットを作成しましたのでご報告いたします。

### 2 お願いしたいこと

【区連長】ご承知おきください。

【地区連長】地区連合定例会等で情報提供をお願いします。

【単位会長】単位会長あて資料を送付します。定例会等で情報提供をお願いします。

### 3 配布資料

- (1) 横浜みどりアップ計画[2019-2023] 5 か年の実績概要リーフレット
- (2) 5 か年[2019 年度～2023 年度]の区別実績
- (3) 「横浜みどり税」の説明チラシ

#### 【問合せ】

横浜みどりアップ計画の広報に関すること

みどり環境局戦略企画課 TEL:671-2712 FAX:550-4093

横浜みどり税に関すること

財政局税務課 TEL:671-2253 FAX:641-2775

## 効果的な広報の展開

みどりに関するイベントへの出展や、「広報よこはま」等への記事掲載、SNSなど様々な手法を用いて、幅広い年齢層にみどりアップ計画の取組と成果を知っていただけるよう広報を展開しました。



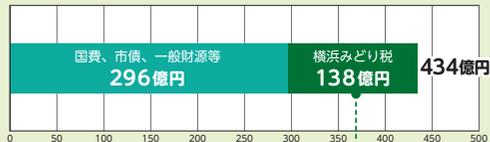
イベントでの広報



広報よこはま 令和6年3月号

## 計画の事業費と横浜みどり税(5か年の累計)

### 5か年(2019~2023年度)の事業費 (うち横浜みどり税)



### 計画の柱ごとの横浜みどり税活用額



緑の減少に歯止めをかけ、「緑豊かなまち横浜」を次世代に継承するため、2019年度からの5か年の事業費434億円のうち、横浜みどり税を138億円充当し、市内の樹林地の買取り・維持管理等をはじめとした緑の保全・創出、育成に取り組みました。

### 横浜みどり税の課税方式

- 【個人】市民税の均等割に年間900円上乗せ  
※所得が一定金額以下で市民税均等割が課税されない方を除く
- 【法人】市民税の年間均等割額の9%相当額を上乗せ



## 横浜みどりアップ計画 市民推進会議の活動

横浜みどりアップ計画市民推進会議は、公募市民や学識経験者などから構成されている附属機関です。横浜みどりアップ計画の取組の検証や、現地調査を行い、評価・提案を報告書にまとめたほか、広報誌「YokohamaみどりアップAction」を9号発行しました。



Yokohama  
みどりアップ  
Action



詳しくはHPを  
ご覧ください

実績報告書はHPを  
ご覧ください。  
区ごとの実績もご  
覧いただけます。



横浜みどりアップ計画 検索

お問合せ

「横浜みどりアップ計画」の広報について  
みどり環境局戦略企画課

TEL 045-671-2712 FAX 045-550-4093

「横浜みどり税」について  
【個人市民税】各区区役所税務課または財政局税務課  
【法人市民税】財政局法人課税課

TEL 045-671-2253 FAX 045-641-2775  
TEL 045-671-4481 FAX 045-210-0481



横浜みどりアップ 葉っぱー

令和6年10月発行 横浜市みどり環境局戦略企画課

# 横浜みどりアップ計画 [2019-2023]

5か年の実績 概要(2019年度~2023年度の実績)



青葉区寺家町

緑の減少に歯止めをかけ、「緑豊かなまち横浜」を次世代に継承するため、「横浜みどり税」を財源の一部として活用しながら、「横浜みどりアップ計画[2019-2023]」を実施しました。

このリーフレットは、2019~2023年度に実施した事業の実績を概要としてまとめています。



GREEN×EXPO 2027  
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月~9月 横浜・上瀬谷



計画の柱1

## 市民とともに次世代につなぐ森を育む

### 樹林地の保全が進んでいます

5か年で176.9ha、計画開始以降15年間で新たに1,082.5haの樹林地を緑地保全制度により指定しました。計画開始前は40年間で861.9ha指定しており、3倍以上のスピードで保全が進みました。

これまでのみどりアップ計画 (2009～2018年度)

10年間 **905.6ha**

みどりアップ計画以前 (1969～2008年度)

40年間 **861.9ha**



2019～2023年度

**176.9ha**

**+ = 1,082.5ha**

▶ 緑地保全制度による新規指定 **176.9ha**

▶ 市による買取り **75.6ha**



下瀬谷特別緑地保全地区／瀬谷区

### 森に親しむための機会が広がっています

森に親しむことができるように、市民の森などを整備したほか、ガイドマップの作成や子ども向けのイベントを開催しました。

▶ 保全した樹林地の整備 **381か所**

▶ 市内大学や関係団体と連携したイベント、区主催による森でのイベント **382回**



間伐材を活用したクラフト教室／鶴見区



森の中のプレイパーク／南図書館／南区

### 樹林地の維持管理や安全の確保を市民協働で進めています

樹林地を良好かつ安全に維持管理するとともに、樹林地所有者に対しての維持管理費用の助成を行いました。

▶ 森の維持管理 **樹林地811か所、公園196か所**

▶ 維持管理の助成 **688件**



保全管理計画や森づくりガイドラインを活用した維持管理／泉区



樹林地所有者に対する維持管理支援作業前後／旭区

## 市民の森

～計画開始以降16か所の市民の森が開園～

横浜市では1971年に全国に先駆けて、緑地を保存しながら、その緑地を散策や憩いの場として公開する「市民の森」制度を創設しました。「市民の森」は計画開始前の27か所から16か所増え、現在43か所を公開しています。

～ボランティアの皆さんによる良好な森づくり～

市民の森では、愛護会や森づくり活動団体など、ボランティアの皆さんが、草刈り、間伐、生きもの調査や環境教育といった「森づくり活動」を行っています。



池辺市民の森／都筑区

### 「横浜みどりアップ計画 [2019 - 2023]」計画期間に開園した4か所の市民の森



長津田市民の森／緑区  
2020年4月1日開園  
クヌギやコナラを主とした広葉樹林が残り、コケラやエナガ、シジュウカラなどの様々な鳥が生息しています。



市沢市民の森／旭区  
2021年4月1日開園  
緑陰や水辺の風景を楽しむながら散策ができるほか、ホテルや鳥類などを観察することができます。



名瀬・上矢部市民の森／戸塚区  
2022年3月28日開園  
コナラなどの広葉樹林からなる雑木林で、山推治には竹林がみられ、昔ながらの里山の自然景観を楽しむことができます。



今井・境木市民の森／保土ケ谷区  
2022年4月1日開園  
クヌギやコナラなどの広葉樹林と、スギやヒノキなどの針葉樹林が広がり、尾根道を歩くことで四季折々の緑の風景を楽しむことができます。



計画の柱2

## 市民が身近に農を感じる場をつくる

### 良好な農景観を保全しています

市内の水田面積の約9割を保全し、農地縁辺部の草刈りや植栽等、周辺環境と調和した良好な農景観を維持・形成しました。

▶ 水田保全面積 **111.1ha**



水田の保全／青葉区



土砂流出防止対策／都筑区

### 農とふれあう場や機会が増えています

気軽に農体験ができる収穫体験農園や、自分で考えた栽培プランで自由に野菜づくりを楽しむことができる認定市民菜園など、市民ニーズに合わせた農園の開設を進めるとともに、市民が農について学ぶイベントや講座を実施しました。

▶ 様々なニーズに合わせた農園の開設 **19.8ha**

▶ 横浜ふるさと村、恵みの里等で農体験教室などの実施 **422回**



収穫体験農園／神奈川区



認定市民菜園／磯子区

### 地産地消が拡大しています

市民が身近なところで地産地消を実感できるよう、直売所・青空市等を支援しました。

▶ 直売所・青空市等の支援 **262件**



みなとみらい農家朝市／西区



柴シーサイド恵みの里直売所／金沢区



計画の柱3

## 市民が実感できる緑や花をつくる

### 緑と花の空間づくりを進めています

公共施設や保育園など、市民の身近な場所で実感できる緑を創出・育成しました。

▶ 公共施設・公有地での緑の創出 **39か所**

▶ 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出 **203か所**



横浜子ども科学館／磯子区



保育園での緑の創出／港北区

### 緑や花で街の賑わいづくりを創出しています

多くの市民が集まる都心部等の公共空間などで、緑や花により街の魅力を向上させ、賑わいづくりを推進しました。

▶ 都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくりと維持管理 **71か所**



横浜児童遊園地／保土ケ谷区



山下公園／中区

### 市民や企業の皆さんと緑と花の取組を全区で進めています

地域が主体となり、地域にふさわしい緑を創出する計画をつくり、実現していくための「地域緑のまちづくり」を推進しました。オープンガーデンなどの市民が緑や花に親しむ取組を各区で推進しました。

▶ 地域緑のまちづくり **23地区**

▶ 緑や花を身近に感じる各区の取組 **18区で推進**



地域の花いっぱいにつながる取組／港南区



緑や花を身近に感じる各区の取組／栄区

# よこはまの緑を 未来を担う 子どもたちのために

暮らしを支え、豊かにする緑を未来に残すために、  
横浜市は、市民・事業者の皆様「横浜みどり税」をご負担いただき、  
緑をまもり、つくり、育む「横浜みどりアップ計画」を進めています。



## 横浜みどり税について

横浜みどり税の  
税額

個人市民税均等割に年間 **900円** を上乗せ

※法人の場合は、年間均等割額の9%相当額を上乗せ

※課税年度は、令和10年度までです。



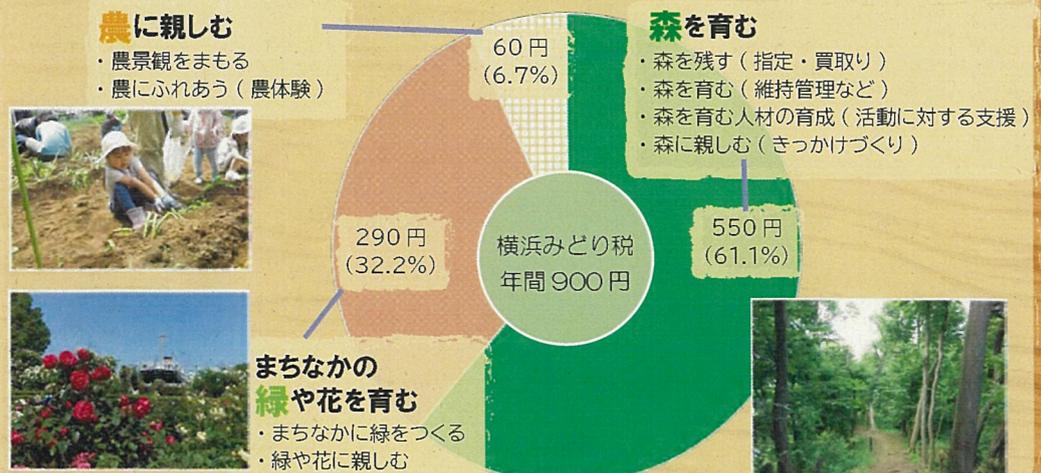
横浜みどりアップ 葉っぱー

横浜みどり税の  
使途

「横浜みどりアップ計画」のうち、下記の横浜みどり税の使途に該当する事業へ横浜みどり税を充当します。

- ・樹林地・農地の確実な担保
- ・身近な緑化の推進
- ・維持管理の充実によるみどりの質の向上
- ・ボランティアなど市民参画の促進につながる事業

横浜みどり税（年間900円）の使いみち



# 横浜みどりアップ計画 [2024-2028]

横浜みどりアップ計画



## 計画の理念

みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜



## 5か年の目標

- ・緑の減少に歯止めをかけ、総量の維持を目指します
- ・地域特性に応じた緑の保全・創出・維持管理の充実により緑の質を高めます
- ・市民と緑との関わりを増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現します

## みどり税を活用した取組

市民とともに  
次世代につなぐ**森**を育む

### 5か年の主な取組

- 樹林地の新規指定と買入れ申し出への対応
- 指定樹林地への維持管理支援
- 森に親しむきっかけづくり

市民が身近に  
**農**を感じる場をつくる

### 5か年の主な取組

- 水田保全への支援
- 農園の開設など、農とふれあう機会の全市的な展開

市民が実感できる  
**緑**や花をつくる

### 5か年の主な取組

- まちなかでの緑の創出や街路樹等による景観づくり
- 地域での緑や花の取組支援
- 子どもを育む空間での緑の創出・育成

市民・事業者の皆様が取組の意義や成果、緑がもたらす効果をわかりやすく伝えることで、取組への共感と、緑のある暮らしの実感につながる**広報**を展開



## 森林環境税（国税）と横浜みどり税

### Q 国の森林環境税と横浜みどり税はどう違うの？



### A 目的と使いみちが異なります。

森林環境税は、林業が成り立たない地方の山間部の森林整備や、国産木材の利用促進を主な目的として創設されました。横浜市では、木材利用の促進を図るため、学校施設や公園などの市民利用施設の木材利用工事に活用しています。

横浜みどり税は、市内の緑の保全・創造を目的としたものであり、樹林地の買い取りや、まちなかでの緑の創出などに活用しています。森林環境税と横浜みどり税は、趣旨と使いみちが異なります。

### ● 森林環境税（国税）・森林環境譲与税について

趣旨（目的）	わが国の温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るための地方財源を安定的に確保するため
課税手法・税率	年間1,000円を個人住民税と併せて賦課徴収
課税期間	令和6年度から
市町村への譲与	国が令和元年度から一定の基準で譲与（令和5年度までは、地方公共団体金融機関の準備金を活用）
使いみち	間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進に関する費用

※このほか、神奈川県では、水源環境保全・再生のために、個人県民税に対する超過課税を実施しています。

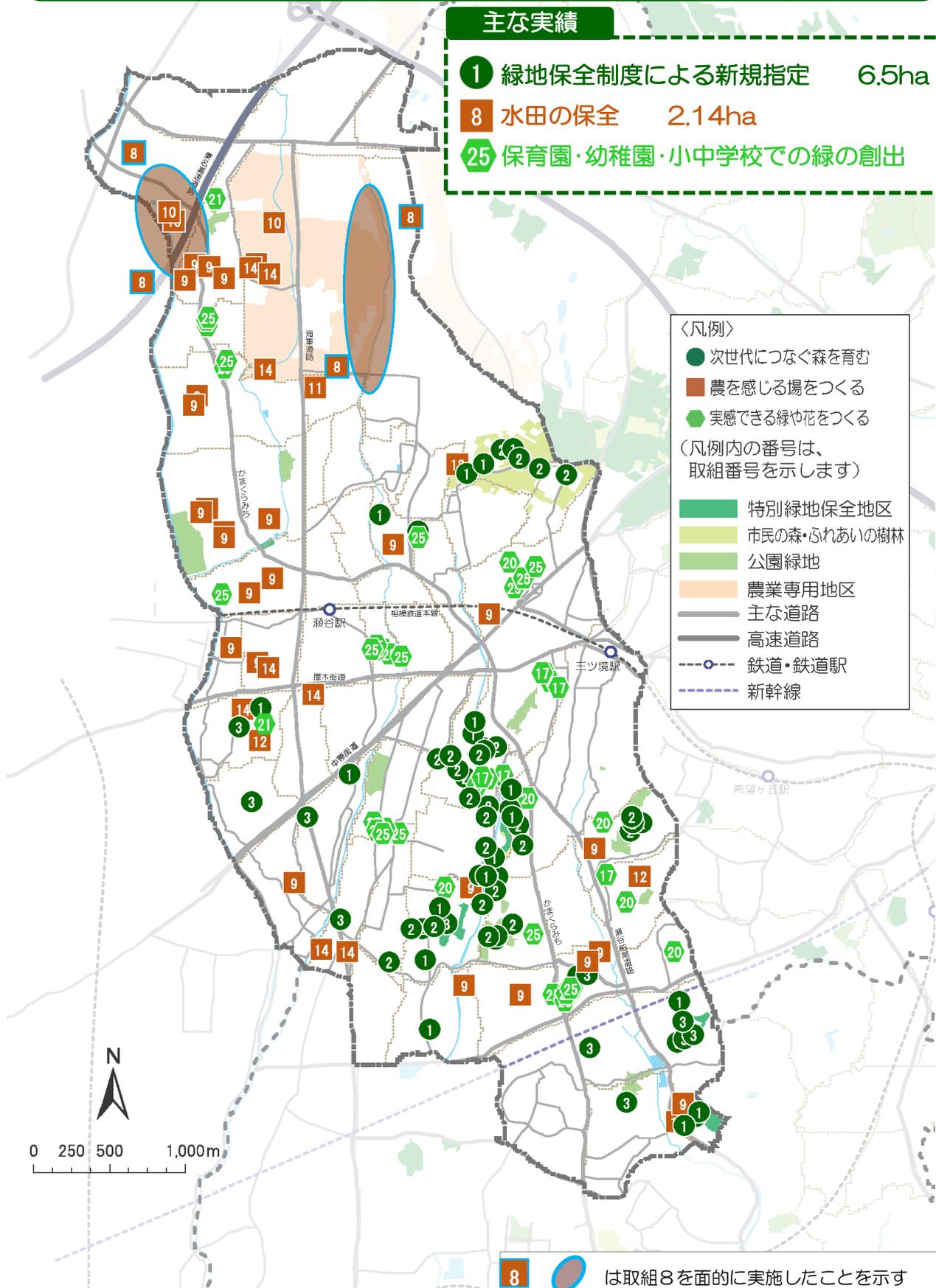
### 【お問い合わせ】

- 「横浜みどり税」について  
▶ 区役所税務課 または 財政局税務課 電話：045-671-2253 FAX：045-641-2775
- 「横浜みどりアップ計画[2024-2028]」について  
▶ みどり環境局戦略企画課 電話：045-671-4214 FAX：045-550-4093

# 瀬谷区

## 主な実績

- ① 緑地保全制度による新規指定 6.5ha
- ⑧ 水田の保全 2.14ha
- ②⑤ 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出 3か所



〈凡例〉

- 次世代につなぐ森を育む
- 農を感じる場をつくる
- ◆ 実感できる緑や花をつくる

(凡例内の番号は、取組番号を示します)

- 特別緑地保全地区
- 市民の森・ふれあいの樹林
- 公園緑地
- 農業専用地区
- 主な道路
- 高速道路
- 鉄道・鉄道駅
- 新幹線

⑧ は取組⑧を面的に実施したことを示す

計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 6.5ha

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2020年度 0.5ha 阿久和南一丁目藤ヶ谷特別緑地保全地区

2023年度 3.1ha 阿久和南一丁目特別緑地保全地区（指定拡大）、下瀬谷二丁目特別緑地保全地区

・市民の森等

2022年度 0.1ha 瀬谷市民の森（指定拡大）

・緑地保存地区

2020年度 0.1ha 橋戸三丁目

2021年度 0.2ha 相沢三丁目

・源流の森保存地区

2020年度 0.3ha 宮沢三丁目

2023年度 2.2ha 阿久和南一丁目、宮沢四丁目

○市による買取り

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2021年度 1地区 宮沢・蟹沢特別緑地保全地区

2022年度 2地区 阿久和南一丁目特別緑地保全地区、宮沢三丁目特別緑地保全地区

・市民の森等

2022年度 1地区 瀬谷市民の森

○保全した樹林地の整備 8か所

2019年度 1か所 宮沢三丁目特別緑地保全地区

2020年度 2か所 宮沢三丁目特別緑地保全地区、宮沢ふれあい樹林

2021年度 3か所 東山ふれあい樹林（2か所）、宮沢ふれあい樹林

2022年度 1か所 瀬谷市民の森

2023年度 1か所 宮沢三丁目特別緑地保全地区

## 2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

### ○森の維持管理 38 箇所

#### ・維持管理（樹林地）

2019 年度	5 箇所	瀬谷市民の森、東山ふれあい樹林、宮沢ふれあい樹林、宮沢緑地、宮沢・蟹沢緑地
2020 年度	5 箇所	瀬谷市民の森、東山ふれあい樹林、宮沢ふれあい樹林、宮沢緑地、宮沢・蟹沢緑地
2021 年度	6 箇所	宮沢特別緑地保全地区、宮沢・蟹沢特別緑地保全地区、宮沢三丁目特別緑地保全地区、瀬谷市民の森、東山ふれあい樹林、宮沢ふれあい樹林
2022 年度	6 箇所	宮沢特別緑地保全地区、宮沢・蟹沢特別緑地保全地区、宮沢三丁目特別緑地保全地区、瀬谷市民の森、東山ふれあい樹林、宮沢ふれあい樹林
2023 年度	6 箇所	宮沢特別緑地保全地区、宮沢・蟹沢特別緑地保全地区、宮沢三丁目特別緑地保全地区、瀬谷市民の森、東山ふれあい樹林、宮沢ふれあい樹林

#### ・維持管理（公園）

2019 年度	2 箇所	長屋門公園、瀬谷貉窪公園
2020 年度	1 箇所	長屋門公園
2021 年度	2 箇所	長屋門公園、瀬谷貉窪公園
2022 年度	2 箇所	長屋門公園、瀬谷貉窪公園
2023 年度	2 箇所	長屋門公園、瀬谷貉窪公園

## 3 指定した樹林地における維持管理の支援

### ○維持管理の助成 15 件

2019 年度	2 件	阿久和南一丁目、宮沢三丁目
2020 年度	3 件	阿久和東四丁目、阿久和南一丁目、阿久和南二丁目
2021 年度	7 件	相沢三丁目、阿久和南一丁目、阿久和南三丁目、阿久和東四丁目、北新（2件）、橋戸三丁目
2022 年度	2 件	阿久和南一丁目、下瀬谷二丁目
2023 年度	1 件	下瀬谷一丁目

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

8 水田の保全

○水田保全面積 2.14ha

2019年度	3.20ha	瀬谷町、目黒町
2020年度	3.35ha	瀬谷町、目黒町
2021年度	2.79ha	瀬谷町、目黒町
2022年度	2.73ha	瀬谷町、目黒町
2023年度	2.14ha	瀬谷町、目黒町

9 特定農業用施設保全契約の締結

○特定農業用施設保全契約の締結 29件

2019年度	8件	阿久和東一丁目、下瀬谷三丁目、瀬谷五丁目、瀬谷六丁目、二ツ橋町、本郷三丁目、宮沢三丁目、宮沢四丁目
2020年度	5件	相沢三丁目、阿久和西四丁目、上瀬谷町、中屋敷一丁目、本郷一丁目
2021年度	4件	本郷一丁目（2件）、本郷二丁目、本郷三丁目
2022年度	6件	阿久和南一丁目、上瀬谷町（2件）、中屋敷一丁目（2件）、本郷一丁目
2023年度	6件	阿久和東四丁目（2件）、上瀬谷町（3件）、本郷一丁目（1件）

10 農景観を良好に維持する活動の支援

○まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援

・集団農地維持 81.6ha

2019年度	81.6ha	八幡耕地整理組合、上瀬谷農業専用地区協議会
2020年度	81.7ha	八幡耕地整理組合、上瀬谷農業専用地区協議会
2021年度	81.7ha	八幡耕地整理組合、上瀬谷農業専用地区協議会
2022年度	81.7ha	八幡耕地整理組合、上瀬谷農業専用地区協議会
2023年度	81.6ha	八幡耕地整理組合、上瀬谷農業専用地区協議会

・農地縁辺部への植栽 5件

2019年度	1件	八幡耕地整理組合
2020年度	1件	八幡耕地整理組合
2021年度	1件	八幡耕地整理組合
2022年度	1件	八幡耕地整理組合
2023年度	1件	八幡耕地整理組合

○周辺環境に配慮した活動への支援

- ・牧草等による環境対策 1.82ha

2019年度 0.77ha 下瀬谷一丁目、瀬谷町（3か所）、中屋敷三丁目、南瀬谷一丁目、南瀬谷二丁目（2か所）

2020年度 0.15ha 下瀬谷一丁目、南瀬谷一丁目、南瀬谷二丁目

2021年度 0.48ha 下瀬谷一丁目、瀬谷町（2か所）、南瀬谷一丁目、南瀬谷二丁目（2か所）

2022年度 0.27ha 下瀬谷一丁目、中屋敷三丁目、南瀬谷一丁目、南瀬谷二丁目

2023年度 0.15ha 下瀬谷一丁目、南瀬谷一丁目、南瀬谷二丁目

**11** 多様な主体による農地の利用促進

○遊休農地の復元支援 0.14ha

2022年度 0.14ha 中屋敷三丁目

**12** 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

○様々なニーズに合わせた農園の開設 0.77ha

- ・収穫体験農園

2020年度 0.05ha 橋戸三丁目

2021年度 0.07ha 瀬谷町

- ・市民農園

2022年度 0.10ha 阿久和南三丁目

- ・農園付公園

2019年度 0.55ha 阿久和富士見小金台公園

**14** 地産地消にふれる機会の拡大

○直売所・青空市等の支援 10件

- ・直売所・加工所

2019年度 2件 下瀬谷一丁目、橋戸三丁目

2020年度 1件 橋戸三丁目

2021年度 2件 下瀬谷一丁目、瀬谷五丁目

- ・青空市・マルシェ等

2019年度 1件 上瀬谷直売所グループ

2020年度 1件 上瀬谷直売所グループ

2021年度 1件 上瀬谷直売所グループ

2022年度 1件 上瀬谷直売所グループ

2023年度 1件 上瀬谷直売所グループ

### 計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

#### 17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

##### ○緑の維持管理 9か所

2019年度	3か所	二ツ橋公園、宮沢ふれあいの水辺、阿久和消防出張所
2020年度	2か所	二ツ橋公園、宮沢ふれあいの水辺
2021年度	2か所	二ツ橋公園、宮沢ふれあいの水辺
2022年度	2か所	二ツ橋公園、宮沢ふれあいの水辺

#### 18 街路樹による良好な景観の創出・育成

##### ○良好な維持管理

2019年度	環状4号線（海軍道路）、環状4号線（瀬谷駅南口-下瀬谷）ほか	計 574本
2020年度	環状4号線（海軍道路北部）、環状4号線（瀬谷駅南側）ほか	計 362本
2021年度	環状4号線（海軍道路北部）、環状4号線（瀬谷駅南側）ほか	計 490本
2022年度	環状4号線（八王子街道～中瀬谷消防）、環状4号（瀬谷駅南側）ほか	計 424本
2023年度	環状4号線（瀬谷中学校～下瀬谷）、瀬谷第268号線（南台）ほか	計 353本

#### 20 建築物緑化保全契約の締結

##### ○建築物緑化保全契約の締結 6件

2019年度	5件	阿久和西一丁目、阿久和東一丁目、阿久和東二丁目、二ツ橋町、宮沢三丁目
2020年度	1件	阿久和東三丁目

#### 21 名木古木の保存

##### ○名木古木の保存

###### ・維持管理の助成

2020年度	3本	上瀬谷町（3本）
2022年度	2本	橋戸三丁目（2本）

## 23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

### ○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019年度	区内小中学生と保護者を対象としたフラワーアレンジメント講座、二ツ橋公園におけるプランターの設置・植栽管理
2020年度	オープンガーデンの実施（会場の様子をオンラインで公開）、区内24公園における花苗支援、二ツ橋公園におけるプランター設置、旧上瀬谷通信施設でのイベント実施、たねダンゴワークショップの実施
2021年度	オープンガーデンの実施、区内の花・緑を紹介するガイドマップの制作、二ツ橋公園・楽老南公園におけるプランター設置、旧上瀬谷通信施設でのイベント実施、たねダンゴワークショップの実施
2022年度	オープンガーデンの実施、二ツ橋公園、楽老南公園におけるプランターの設置、たねダンゴワークショップの実施、三ツ境駅南口ペDESTリアンデッキ内の花壇の設置
2023年度	オープンガーデンの実施、二ツ橋公園の植栽、たねダンゴワークショップの実施、三ツ境駅南口ペDESTリアンデッキ内の花壇の設置

### ○地域の花いっぱいにつながる取組

2019年度	花の種の配布、花苗の配布（瀬谷土橋公園ほか1か所）
2020年度	球根などの配布（相沢四丁目公園ほか36か所）
2021年度	球根などの配布（相沢四丁目公園ほか33か所）
2022年度	球根などの配布（相沢四丁目公園ほか35か所）
2023年度	球根などの配布（相沢四丁目公園ほか37か所）

## 24 人生記念樹の配布

### ○人生記念樹の配布 1,250本

2019年度	216本
2020年度	286本
2021年度	337本
2022年度	202本
2023年度	209本

※過年度の報告書から本数を修正しました。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

○緑の創出 3か所

2019年度 1か所 大門小学校

2022年度 2か所 はらのこ原幼稚園、相沢小学校

○緑の維持管理 23か所

2019年度 5か所 瀬谷第二保育園、中屋敷保育園、原小学校、南瀬谷小学校、二つ橋高等特別支援学校

2020年度 5か所 瀬谷第二保育園、中屋敷保育園、原小学校、南瀬谷小学校、二つ橋高等特別支援学校

2021年度 5か所 瀬谷第二保育園、中屋敷保育園、原小学校、南瀬谷小学校、二つ橋高等特別支援学校

2022年度 4か所 瀬谷第二保育園、中屋敷保育園、原小学校、南瀬谷小学校

2023年度 4か所 瀬谷第二保育園、中屋敷保育園、原小学校、南瀬谷小学校



1 緑地保全制度による新規指定  
(阿久和南一丁目特別緑地保全地区)



1 緑地保全制度による新規指定  
(下瀬谷二丁目特別緑地保全地区)



8 水田の保全  
(瀬谷町)



14 青空市・マルシェ等  
(上瀬谷直売所グループ)



23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり  
(オープンガーデン)



25 幼稚園での緑の創出・育成  
(区内幼稚園)

自治会町内会長 各位

「旧上瀬谷通信施設地区まちづくりニュース第5号」の発行について(依頼)

日頃から市政の推進にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

「旧上瀬谷通信施設地区」の一部で開催されるGREEN×EXPO 2027の出展者の決定、新たな公園の整備、新たな桜の名所づくり、周辺の道路整備の状況などについて、広く区民の皆様にご案内するために、「旧上瀬谷通信施設地区まちづくりニュース第5号」を発行いたしました。

つきましては、貴自治会町内会において、各役員・各種団体等の皆様にご一読いただきますよう5部送付させていただきます。なお、回覧にご協力いただける自治会町内会の皆様については、所定の部数をお送りいたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

記

#### 1 送付資料

「旧上瀬谷通信施設地区まちづくりニュース 第5号」A3 1枚

#### 2 参考

市ウェブサイトでの確認方法

「横浜市 旧上瀬谷通信施設地区 まちづくりニュース」で検索

※ 第1号から第4号もご覧いただけます。



<担当>

脱炭素・GREEN×EXPO推進局 上瀬谷整備推進課

蒲田、吉田、永田、鮎川

TEL:045-900-0594、FAX::045-550-4098

E-mail:[da-kamisui@city.yokohama.lg.jp](mailto:da-kamisui@city.yokohama.lg.jp)

# 旧上瀬谷通信施設地区 まちづくりニュース

旧上瀬谷通信施設地区で進めているまちづくりの状況などをお知らせするために「旧上瀬谷通信施設地区まちづくりニュース」を発行しています。

## GREEN×EXPO 2027の出展者(第1次内定※)が決定！

2027年3月19日から9月26日まで開催されるGREEN×EXPO 2027に参加する出展者が決まりました！新しいグリーン社会の実現に向けたパートナーとして、「Village出展」に8件、「花・緑出展」に223件、合計231件の出展者の方をお迎えしました。「幸せを創る明日の風景」のテーマの下、開催に向けて一緒に準備を進めていきます。 ※今後、2次募集を実施します。



提供：公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会



出展者の詳細  
はこちら

## 各国や国内の出展者の展示施設「GX House」(リユース型建築)

GREEN×EXPO 2027は、私たちの生活に大きな影響をもたらす気候変動に着目し、環境と共生し市民の皆さまと共につくる、「環共」をテーマとする日本で初めての国際博覧会です。

会場内の仮設建築物は、会場内外の自然と調和した、サステナブルで美しく、これからの未来の形を見せていく環境に開かれた建築物であり、解体時の廃棄物を抑制する観点からも、リース品やリサイクルが可能な素材を積極的に活用することを目指しています。

今回、「GX House」(リユース型建築)を、各国の出展や国内の出展者の一部の展示施設として活用していくことで、素材の調達から建築、運用、撤去、再利用まで循環するプロセスに配慮していくことになります。

### GX House イメージ図



提供：公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

# 工事の進捗状況

Q: 地区内では、どのような工事が行われているの？ 【①赤枠：道路・上下水道の整備】【②青枠：相沢川調整池の地盤改良工事】

A: GREEN×EXPO 2027会場整備に向けて、道路・上下水道の整備や、整地工事を行っています。また、河川への雨水流出量を制限する治水対策を目的とした調整池の工事に着手しました。地下に整備する相沢川調整池では、地盤改良工事を進めています。



## 公園整備

GREEN×EXPO 2027の会場は、開催後に公園となる予定です。そのため、令和5年11月から、樹木の植栽や、園路等の工事を行い、博覧会会場にもなる公園の基盤整備を進めています。

【既存樹木の移植】



【新たな樹木の植栽】



## 相沢川の整備(令和6年秋から着工)

相沢川は、自然護岸の水辺や湿地、草地や樹林地など、多様な生物の生息環境を公園区域内を中心に整備し、谷戸の原風景の再生に向け整備を進めていきます。

## 和泉川の整備(令和7年から着工)

生物の生息環境が豊かな和泉川の源流部で現況の湿地環境を生かし、周囲に植栽帯を整備して里山景観を創出します。

【現在の相沢川】

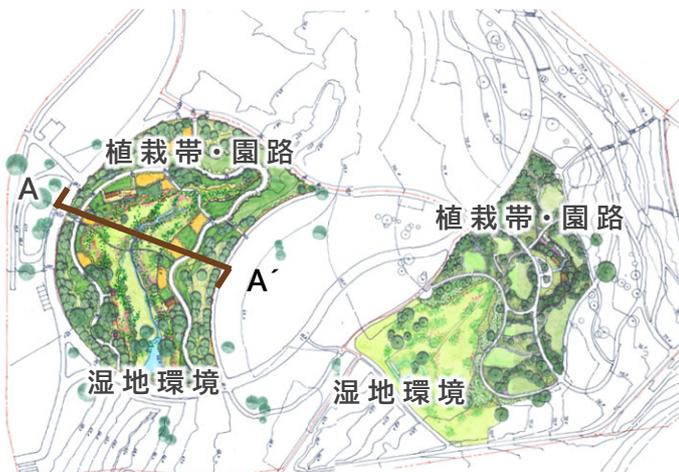


一部暗きょ化されたコンクリート製の水路

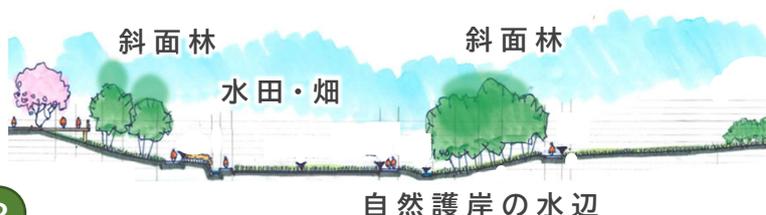
【将来の平面イメージ】



【将来の平面イメージ】



【将来の断面イメージ】



【将来の断面イメージ】



# 新たな桜の名所づくり

## 海軍道路（環状4号線）の桜並木の現状と今後の予測

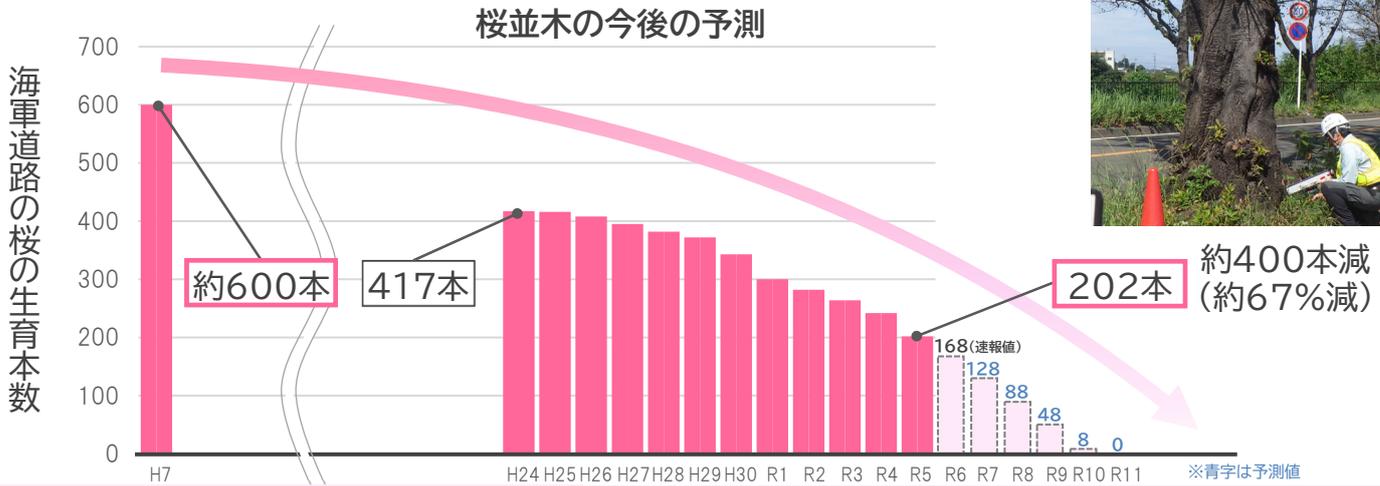
海軍道路の桜は、昭和50年代に植樹され、40年以上が経過しています。年々健全木が減少し、落ち枝や倒木が発生するなど不健全な状態が見受けられるため、平成24年度から樹木診断を毎年実施しています。

台風などによる倒木や、倒木の可能性がある樹木を撤去した結果、平成7年度に約600本あった桜が、令和5年度には、202本まで減少（約67%減）しており、今後5年程度で桜並木の消滅が予測されます。

台風による倒木



樹木診断の様子



## 新たな桜の再生に向けた取組

今後、複数の専門家の客観的な樹木診断の中で、倒木の危険性の有無についても診断し、健全な桜はできるだけ新たな公園に移植するとともに、公園内に開花時期の異なる多品種の桜を新植します。また、海軍道路は、開花時期や花の色がソメイヨシノに近く、病害虫などに強く安全度が高い「コシノヒガン」で再生していきます。

海軍道路と公園を合わせて、約40品種600本以上の桜で、新たな桜の名所づくりに取り組んでいきます。

海軍道路の桜の植替え

新たな公園に桜を植樹



コシノヒガンでの再生事例 (いずみ野駅周辺)

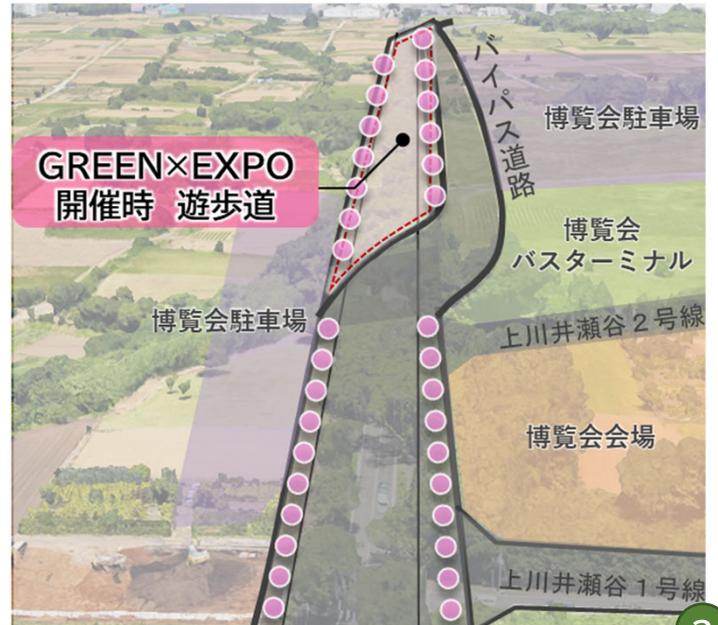


様々な品種の桜の植樹例

新たな桜の再生イメージ図



GREEN×EXPO開催時の海軍道路の桜並木のイメージ



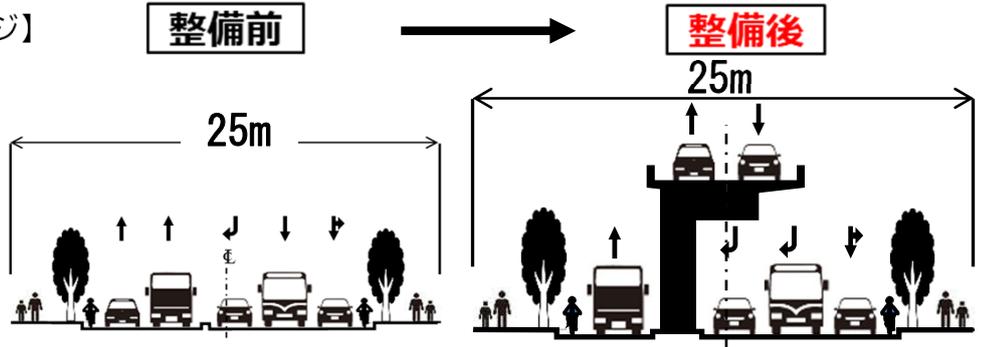
## ● 目黒交番前交差点の立体化

目黒交番前交差点では、環状4号線の立体化に伴う橋りょう工事に令和6年10月から着手します。工事期間中は、安全に留意するとともに、特に交通量が多く渋滞の原因となっている十日市場方面からの右折レーンを常に確保します。  
また、橋りょう架設工事など大規模な交通規制を行う場合は、交通量の少ない夜間に作業を行います。

### 【① 環状4号線立体化の完成イメージ】



東京都葛飾区



## ● 八王子街道

八王子街道を2車線から4車線へ拡幅する工事を進めています。用地取得が完了した区間から順次工事に着手しています。

## ● 環状4号線等のバイパス道路への交通切り替え

環状4号線の拡幅工事(2車線から4車線)等に伴い、現在の交通をバイパス道路【1】に切り替え、現在の歩道や車道機能を確保する予定です。また、調整池等の工事に伴い、バイパス道路【2】に交通を切り替えます。  
いずれのバイパス道路も、年内を目指して交通を切り替えることを検討しています。切り替え時期の詳細は、現地の看板等でお知らせしていきます。

## ● 瀬谷地内線

相模鉄道の線路下を通るアンダーパス部の本格工事着手に向けて、準備工事を進めています。



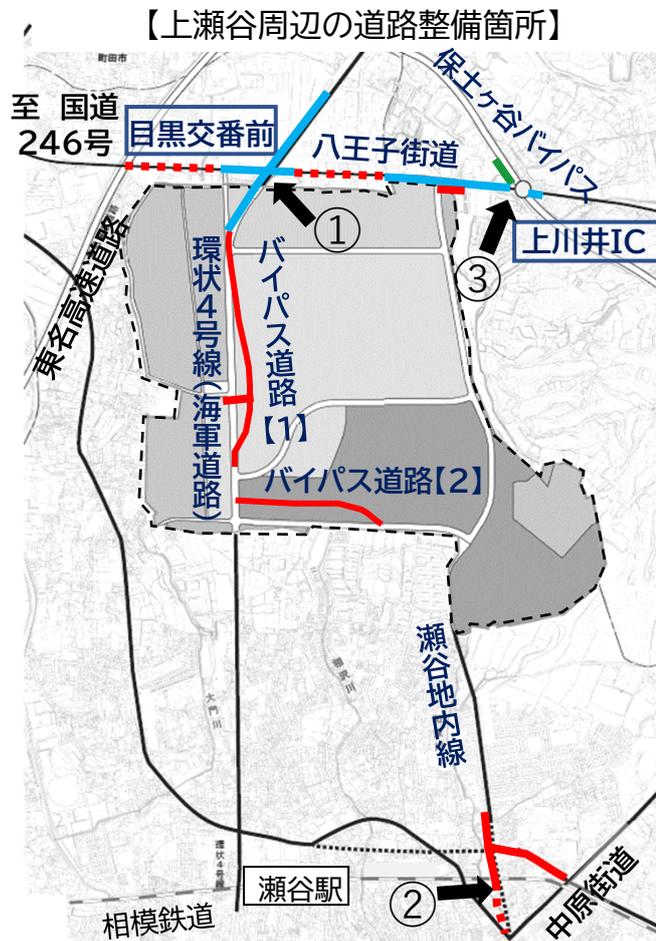
【② 瀬谷地内線 相鉄線路内工事の様子】

## ● 保土ヶ谷バイパス

保土ヶ谷バイパス上川井IC出口(横浜方面)付近の渋滞を緩和するため、1車線から2車線に拡幅しました。  
(令和6年8月完成)



【③ 上川井IC出口 拡幅工事完成】



【上瀬谷周辺の道路整備箇所】

### ■ お問い合わせ先

横浜市脱炭素・GREEN×EXPO推進局 上瀬谷整備事務所 上瀬谷整備推進課

〒246-0003 横浜市瀬谷区瀬谷町5810-6

電話:045-900-0594 E-mail: da-kamisui@city.yokohama.lg.jp

# 瀬谷区内火災・救急状況

瀬谷消防署  
令和6年9月30日現在

## 火災

区分	年別	令和6年	令和5年	増△減
件数		15	23	△8
種別	建物	9	14	△5
	林野	0	0	0
	車両	1	1	0
	船舶	0	0	0
	航空機	0	0	0
	その他	5	8	△3
	損害程度	焼損床面積 (㎡)	280	346
死者(人)		2	2	0
負傷者(人)		7	1	6
主な原因	放火(疑い含む)	3	5	△2
	たばこ	1	6	△5
	こんろ	3	1	2
	電気機器	0	5	△5
	配線器具	0	2	△2
	上記以外	8	4	4
1日あたり		0.1	0.1	0

## 連合町内会別火災発生件数

連合町内会名	令和6年
阿久和北部連合自治会	0
阿久和南部連合自治会	0
三ツ境連合自治会	1
瀬谷第一地区連合町内会	0
本郷地区連合自治会	0
瀬谷北部町内連合会	1
瀬谷第二地区連合自治会	2
細谷戸連合町内会	0
瀬谷第四地区連合自治会	3
南瀬谷自治連合会	4
宮沢連合自治会	1
相沢町内連合会	1
その他	2
合計	15

## 救急

区分	年別	令和6年	令和5年	増△減
件数		6,624	6,545	79
急病		4,890	4,837	53
交通事故		251	266	△15
一般負傷		1,181	1,163	18
その他		302	279	23
1日当たり		24.2	24	0.2

## 分団別火災発生件数

分団名	令和6年
第一分団	1
第二分団	8
第三分団	4
第四分団	2
合計	15

## 月別火災件数・死負傷者状況

区分	月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計
件数		1件	1件	2件	3件	0件	1件	1件	1件	5件				15件
死者		0人	2人				2人							
負傷者		0人	1人	0人	0人	0人	0人	4人	0人	2人				7人

日付	災害種別	発生場所	内容					
9月7日	建物火災	南台 一丁目	一般住宅にて発生					
9月10日	建物火災	宮沢 四丁目	店舗兼住宅にて発生					
9月18日	その他火災	南台 二丁目	遊水地敷地内にて発生					
9月22日	建物火災	ニツ橋町	一般住宅にて発生					
9月29日	その他火災	下瀬谷 一丁目	共同住宅敷地内にて発生					
熱中症搬送状況 (5/1~9/30)		5月	6月	7月	8月	9月	10月	
市内発生件数	4047	31	100	814	1464	1638		
区内発生件数	142	0	7	33	51	51		

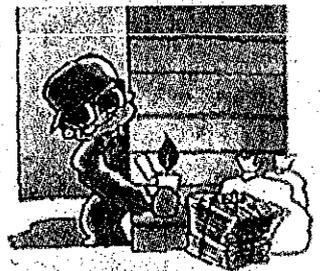
(各表の数値は速報値であり、確定値ではありません。)

# 放火で大切なものを失わないために

- ・放火(疑いを含む)による火災は、横浜市内の火災原因で毎年上位になっています。
- ・日が沈む夕方から人々が睡眠する深夜にかけて多く発生するという特徴があります。
- ・放火を防ぐために、家の周りに燃えやすいものを置かない等の「放火されない、放火させない環境づくり」に努めることが大切です。

## 放火による火災事例

- ・屋外に置かれている漫画本の束に灯油をまかれ、放火された(住宅1棟全焼)。
- ・物置の施錠していなかったサッシ戸から侵入され、積まれていたむしろに放火された(物置1棟全焼)。
- ・倉庫の裏に置いていたタイヤに放火された(倉庫1棟全焼)。



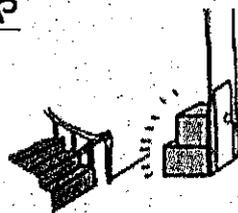
## 自宅での注意点

- ・家の周りに燃えやすいものを置かないようにしましょう。
- ・ゴミは決められた日時・場所に出すようにしましょう。
- ・物置や車庫には鍵をかけるようにしましょう。
- ・家の周りに常夜灯や人感センサーライトを設置して、放火されない環境をつくりましょう。
- ・車両のボディカバーは「防災製品」を使用しましょう。
- ・共同住宅の廊下や階段に物を置かないよう管理しましょう。



## 店舗等での注意点

- ・物品販売店などでは、バックヤードや階段などが死角になりがちです。
- ・燃えやすい物などは整理整頓し、不要となった物は処分しましょう。
- ・巡回監視体制をとりましょう。
- ・駐車場所は常に明るくして、他の人が自由に出入りできないようにすると効果的です。



「放火火災の発生状況と対策」

詳しくは



## 令和7年瀬谷区消防出初式の実施について（お知らせ）

秋冷の候、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃から、消防行政の推進に御理解、御協力をいただき、深く感謝申し上げます。

この度、新春を飾る「令和7年瀬谷区消防出初式」を次により開催する予定として  
いますので、お知らせいたします。

皆様の御来場を心よりお待ちしております。

なお、どなたでも、事前予約なしで参加いただけますが、各会場の席数等には限り  
がございますので、御了承ください。

### 1 日時

令和7年1月5日（日）

午前9時45分から11時35分頃まで（9時15分受付開始）【※予定】

### 2 場所

瀬谷公会堂講堂 及び ニツ橋公園（瀬谷区ニツ橋町190番地）

### 3 主催

令和7年瀬谷区消防出初式実行委員会

### 4 参加団体

- ・瀬谷消防署
- ・瀬谷消防団
- ・瀬谷火災予防協会
- ・瀬谷消友会

### 5 実施内容

式典・演奏、消防総合訓練（特別救助隊による人命救助訓練、瀬谷消防団等による一斉放水訓練を予定）

#### 【お問合せ先】

令和7年瀬谷区消防出初式実行委員会 事務局  
（瀬谷消防署 総務・予防課 庶務係内）

担当：武居・猪股

電話：045-362-0119

令和6年10月1日

瀬谷区連合町内会自治会連絡協議会  
各地区連合自治会町内会長 様

令和7年瀬谷区消防出初式実行委員会委員長

令和7年瀬谷区消防出初式における表彰候補者の推薦・報告について（依頼）

秋冷の候、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

平素から消防行政の推進につきまして、格別の御支援、御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、瀬谷消防署では令和7年の瀬谷区消防出初式を1月5日（日）に瀬谷公会堂講堂及び二ツ橋公園で開催する予定です。式典において、日頃から地域の防火防災の取組推進に御尽力いただいている方々の功勞に対して、感謝の意を表させていただきます。

つきましては、貴地区連合自治会町内会で、表彰候補に該当する方がいらっしゃる場合は、推薦・報告いただきますようお願いいたします。

#### 1 対象者

消防施設の拡充強化、火災予防の啓発等について、常に各地域において消防行政に積極的に協力し、その発展に貢献している個人又は団体を対象としています。

#### 2 表彰区分及び人員（地区連合自治会町内会単位）

##### (1) 地域防災活動功勞者表彰

各地区連合自治会町内会から【1団体又は1人】まで推薦をお願いします。

##### (2) 家庭防災員功勞者表彰

各地区連合自治会町内会から【1人】まで報告をお願いいたします。

#### 3 推薦の方法

同封の「地域防災活動功勞者推薦書」及び「家庭防災員表彰該当者報告書」に必要事項を御記入の上、地区連合自治会町内会長名にて、返信用封筒により下記担当あてに御提出ください

#### 4 提出期限

令和6年11月18日（月） ※次回の区連会定例会開催日

#### 【お問合せ先】

令和7年瀬谷区消防出初式実行委員会 事務局  
（瀬谷消防署 総務・予防課 庶務係内）

担当：武居・猪股

電話：045-362-0119

令和 6 年 月 日

瀬谷消防署長

【推薦者】 職・氏名 \_\_\_\_\_

連絡先 \_\_\_\_\_

### 地域防災活動功労者推薦書

区 分	個人 ・ 団体 (どちらかに丸を付けてください。)
ふりがな 氏名 又は 団体名	※表彰状の宛名となるため、正確な記載をお願いいたします。 団体の場合は、代表者の職・氏名も記載
住 所	
電話番号	
表 彰 推薦理由	
この活動での 過去の表彰歴等	なし

### 家庭防災員表彰該当者報告書

ふりがな 氏 名	※表彰状の宛名となるため、正確な記載をお願いいたします。
住 所	
電話番号	
表 彰 推薦理由	
この活動での 過去の表彰歴等	なし

※ 必要に応じて、資料を添えることができます。

御記入いただいた個人情報は、本表彰に係る事務にのみ使用させていただきます。

【記入例】

地域防災活動功労者推薦書

区分	団体・ <b>個人</b> （どちらかに丸を付けてください。）
ふりがな 団体名 氏名	※表彰状の宛名となるため、正確な記載をお願いいたします。
住所	瀬谷区 ニツ橋町 〇〇-〇
電話番号	XXX-XXX-XXXX
功労概要	令和5年10月に完了した、地震による火災の延焼被害の拡大防止のための、スタンドパイプ式初期消火器具の設置・更新事業において、設置場所候補地の選定や、消防署への申請手続きなど、事業全般に渡り主体的に対応し、無事に事業を完了させ、〇〇自治会地域の自主防災力向上に大きく貢献した。
この活動での過去の表彰歴等	なし

地域防災活動功労者推薦書

区分	<b>団体</b> ・個人（どちらかに丸を付けてください。）
ふりがな 団体名 氏名	※表彰状の宛名となるため、正確な記載をお願いいたします。
住所	瀬谷区 ニツ橋町 〇〇-〇
電話番号	XXX-XXX-XXXX（〇〇自治会 会長）
功労概要	令和5年11月に開催された、瀬谷区町の防災組織初期消火合同訓練会への参加のほか、所属自治会内での初期消火訓練会の企画運営に主体的に携わるなど、地域防災力の向上に尽力した。
この活動での過去の表彰歴等	「〇〇自治会」として平成20年に消防署長表彰を受賞（「〇〇自治会 自主防災隊」としての受賞歴は、なし。）

## 【記入例】

### 家庭防災員表彰該当者報告書

ふりがな 氏名	※表彰状の宛名となるため、正確な記載をお願いいたします。
住所	瀬谷区 ニツ橋町 〇〇-〇
電話番号	XXX-XXX-XXXX
表彰事由	平成25年から家庭防災員地区連絡員として、各種研修・訓練会に積極的に参加し地域に持ち帰って所属自治会内で研修会を企画するなど精力的に活動した。
この活動での過去の表彰歴等	なし

### 家庭防災員表彰該当者報告書

ふりがな 氏名	※表彰状の宛名となるため、正確な記載をお願いいたします。
住所	瀬谷区 ニツ橋町 〇〇-〇
電話番号	XXX-XXX-XXXX
表彰事由	〇〇自治会 防災担当を約10年に渡り担った後に、平成25年から10年間、家庭防災員として精力的に活動しており、今年度は、瀬谷消防署が毎月15日行う救命講習に参加し、地域のパパママ教室における救命法勉強会の企画開催につなげるなど精力的に活動した。
この活動での過去の表彰歴等	「〇〇自治会 防災担当」として平成20年に消防署長表彰を受賞（「家庭防災員」としての受賞歴は、なし。）

※ 必要に応じて、資料を添えることができます。

御記入いただいた個人情報は、本表彰に係る事務にのみ使用させていただきます。

## 年末年始のごみと資源物の収集日程について

### 1 事業の趣旨

本年度の年末年始のごみと資源物の収集は以下のとおり行いますので、自治会町内会長様へお知らせをさせていただきます。(詳細は、裏面資料参照)

また、班回覧の中止に伴い、自治会町内会掲示板へのチラシの掲出をお願いいたします。チラシの配布につきましては、11 月下旬に各自治会・町内会へ配送させていただきますので、よろしくお願いいたします。

### 2 お願いしたいこと

【区連長】ご承知おきください。

【地区連長】地区連合定例会等で情報提供をお願いします。

【単位会長】定例会等で周知していただき、掲示板へのチラシ掲出をお願いします。

### 3 年末年始の収集日程について

- (1) 12 月 31 日 (火) から 1 月 3 日 (金) まで、収集をお休みさせていただきます。
- (2) 「燃やすごみ」「資源物」について、年末は 12 月 30 日 (月) まで、年始は 1 月 4 日 (土) から通常の曜日どおり収集します。

### 4 広報について

- (1) 自治会町内会掲示板へのチラシ掲出  
※11 月下旬に各自治会町内会へ配送させていただきます。
- (2) 各集積場所に収集日程表を貼付
- (3) 広報よこはま 12 月号 (市版)
- (4) ごみ収集車によるアナウンス
- (5) 市・局ホームページへの掲載
- (6) LINE・X (旧 Twitter) などへの掲載

### 5 資料 (裏面)

年末年始のごみと資源物の収集日程

担当：業務課計画係 (収集日程に関するお問合せ)

業務課運営係 (広報に関するお問合せ)

電話：671-2551 (計画係)、671-3815 (運営係)

FAX：業務課 662-1225

# 年末年始のごみと資源物の収集日程

**12月31日(火)から1月3日(金)まで、  
収集はお休みさせていただきます。**

- 年末も、ごみと資源物の分別と減量にご協力をお願いします。
- ごみと資源物は、各収集日の **朝8時まで**にお出してください。  
(年末年始の期間は、通常と収集時間が変わることがあります。)
- 収集がお休みの日は、ごみと資源物を絶対に出さないでください。
- 分別されていないものは収集できません。



横浜市資源循環局マスコットイーオ

収集日程をお確かめの上、ルールを守ってお出ください。		燃やすごみ・燃えないごみ スプレー缶・乾電池	プラスチック製容器包装 またはプラスチック資源	缶・びん・ペットボトル 小さな金属類
12月	28日(土)	通常の曜日どおり収集します		
	29日(日)	収集はお休みです		
	30日(月)	通常の曜日どおり収集します		
1月	31日(火)	収集はお休みです		
	1日(水)			
	2日(木)			
	3日(金)			
	4日(土)	通常の曜日どおり収集します		
	5日(日)	収集はお休みです		
	6日(月)	通常の曜日どおり収集します		

※ 古紙・古布等の、「資源集団回収」の日程については、実施している自治会・町内会等か、回収業者へ直接お問合せください。

## 粗大ごみの申込み

電話でのお申込みは12月31日(火)から1月3日(金)までお休みします。



横浜市 粗大ごみ  
2次元コード

※12月のお申込みは特に混み合い、  
年内の収集にお伺いできない場合がございます。



粗大ごみのお申込みについてはこちらから  
又は、インターネットで「横浜市 粗大ごみ」と検索

12月30日正午から1月3日までにお申し込みされた方への返信(収集日等のお知らせ)は、1月4日以降になります。

令和6年度 瀬谷区人権啓発講演会

# ユーモアで 文化を越えたつながりを

瀬谷区には、2,000人を超える外国籍の方が生活しており、5年前と比較して約30%増加しています。GREEN×EXPO2027開催を機に、今後さらに外国人の方が瀬谷区にお越しいただくこととなります。おもてなしの心でお迎えるよう、文化の違いを越えて笑いあい、ユーモアを活用したコミュニケーション方法を、海外講演の経験や英語落語の実演も交えてお伝えします。

講師

神奈川大学国際日本学部国際文化交流学科

大島 希巳江教授

講師

プロフィール

- ・渋谷教育学園幕張高校在学中、1年間アメリカの交換留学生として学ぶ。その後コロラド州立大学ボルダー校へ進学し、1993年、同大学卒業後に帰国。国際基督教大学大学院にて社会言語学、異文化コミュニケーション学博士号取得。文京学院大学外国語学部の准教授、現職を務める。
- ・専門分野は異文化コミュニケーション・社会言語学・ユーモア学。
- ・英語教育における“笑いとユーモアの効果”の研究の一環として1997年から英語落語の海外講演をプロデュースし、講演実績は世界約20か国、1,000回を超える。



令和6年12月9日(月)

14時00分~16時00分

(開場:13時30分)

瀬谷公会堂 講堂

横浜市瀬谷区二ツ橋町190番地

瀬谷区役所  
2階

入場無料

手話通訳・一時託児あり

定員 500名 (事前申込・先着順)

<申込方法>

①横浜市電子申請・届出システム

②TEL③FAX (様式任意) いずれかの方法でお申込みください。  
必要事項: 氏名、住所、電話番号、手話通訳・託児希望有無



駐車場の減免はありません。  
公共交通機関をご利用ください。

申込期間 11月11日(月)~12月2日(月)

お問合せ先 瀬谷区総務課庶務係 TEL 045(367)5612 / FAX 045(366)9657

Email se-shomu@city.yokohama.lg.jp

無料

おだやかに、心を寄せて



# 人生を しまう時間

監督 下村幸子  
プロデューサー 堀内広明  
原案 下村幸子  
脚本 青木楓 渡辺幸太郎  
制作 NHK エンタープライズ  
制作 NHK  
監製 玉置  
2019年 日本テレビ放送網  
© NHK



患者と家族と向かい合い、最後の日々をともに過ごす——  
小堀鶴一郎医師(80歳)と在宅医療チームに密着した200日の記録  
www.jinsei-toki.jp

文部科学省特別選定

(C) NHK 【写真=落合由利子】

定員200名  
事前申込制  
(先着順)



もれなく  
コットンバッグ  
プレゼント

令和6年12月21日(土)  
会場：瀬谷公会堂

内容

13:00 上映会 (12:20開場)  
区内在宅医療・介護関係者による  
15:15 シンポジウム

申込期間：11月11日(月)～12月1日(日)

【電子申請で申込】右記QRコード

上記が難しい場合、瀬谷区在宅医療相談室(045-520-3122)へのお電話、  
もしくは瀬谷区内の地域ケアプラザ窓口でも直接お申込みいただけます。



■主催：瀬谷区在宅医療相談室、瀬谷区高齢・障害支援課 ■共催：瀬谷ケアマネット、瀬谷区薬剤師会、瀬谷区訪問看護連絡会、瀬谷区内地域ケアプラザ ■後援：横浜市瀬谷区医師会、瀬谷区歯科医師会

■問合せ先：瀬谷区在宅医療相談室(電話045-520-3122)

※駐車場は有料です。台数に限りがございますので、可能な限り公共交通機関をご利用ください。

こども、みんなが主役！よこはまわくわくプラン  
(第 3 期横浜市子ども・子育て支援事業計画／横浜市こども計画)  
素案に係るパブリックコメントの実施について

子ども・子育て支援法等に基づく本市の子ども・子育て支援分野の総合計画である、第 2 期横浜市子ども・子育て支援事業計画が令和 6 年度で終了となることから、今年度、第 3 期事業計画を策定します。第 3 期事業計画は、令和 5 年 4 月に施行された「こども基本法」に基づく「市町村こども計画」としても位置付け、一体的に推進していく予定です。

このたび、計画素案を取りまとめましたので、10～11 月に、市民の皆様をはじめ関係者の皆様からご意見を募集するパブリックコメントを実施します。ぜひご意見をお寄せいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

【パブリックコメントの概要】

- 1 募集期間  
令和 6 年 10 月 17 日（木）～令和 6 年 11 月 15 日（金）
- 2 意見募集リーフレットの配布場所  
募集期間中、区役所、横浜市市民情報センター、地区センター等で配布  
※ 計画素案の全体（冊子）は、各区役所広報相談係・こども家庭支援課、横浜市市民情報センター、横浜市こども青少年局企画調整課及び本市ホームページで閲覧できます。
- 3 意見提出方法  
電子申請・届出システム、電子メール、郵送、FAX
- 4 その他  
広報よこはま 10 月号でお知らせしているほか、記者発表も行います。  
また、「こども基本法」の趣旨を踏まえて、パブリックコメントの一環として、こどもを対象とした意見募集も実施します。

【スケジュール（予定）】

令和 6 年 12 月 パブリックコメントの結果公表  
令和 7 年 3 月 計画策定

【添付資料】

こども、みんなが主役！よこはまわくわくプラン素案（概要版）  
こども、みんなが主役！よこはまわくわくプラン素案（やさしい概要版）

担 当：こども青少年局企画調整課 宗川、中村  
電 話：6 7 1－4 2 8 1  
F A X：6 6 3－8 0 6 1  
E-mail：kd-kikaku@city.yokohama.lg.jp

# こども、みんなが主役！よこはまわくわくプラン

(第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画／横浜市こども計画)

## 素案（概要版）

計画期間：令和7（2025）年度～令和11（2029）年度

【パブリックコメント】みなさまのご意見をお寄せください

募集  
期間

令和6（2024）年10月17日（木）から  
令和6（2024）年11月15日（金）まで

### 目次

第1章 計画について	1
第2章 こどもや子育てを取り巻く状況	2
第3章 本市の目指すべき姿と基本的な視点	3
第4章 施策体系と事業・取組	4
重点テーマⅠ すべてのこどものウェルビーイングを支える	5
重点テーマⅡ 子育て家庭が実感できる「ゆとり」を生み出す	6
基本施策1 生まれる前から乳幼児期までの一貫した支援の充実	7
基本施策2 地域における子育て支援の充実	8
基本施策3 乳幼児期の保育・教育の充実と学齢期への円滑な接続	9
基本施策4 学齢期から青年期までのこども・若者の育成施策の推進	10
基本施策5 障害児・医療的ケア児等への支援の充実	11
基本施策6 困難を抱えやすいこども・若者への支援施策の充実	12
基本施策7 ひとり親家庭の自立支援／DV 被害者や困難な問題を抱える女性への支援	13
基本施策8 児童虐待防止対策と社会的養育の推進	14
基本施策9 社会全体でこども・若者を大切にする地域づくりの推進	15
第5章 保育・教育及び地域子ども・子育て支援事業に関する量の見込み・確保方策	16
第6章 計画の推進体制等について	18

# 第1章 計画について

- ◆ 本市の子ども・子育て支援施策に関する基本理念や各施策の目標・方向性を定めます。また、子ども・子育て支援法に基づき、保育・教育及び地域子ども・子育て支援事業に関する各年度の「量の見込み」（ニーズ量）及び、量の見込みに対応する「確保方策」（確保量）を定めます。
- ◆ 第3期事業計画は、第2期事業計画までの子ども・子育て支援法及び次世代育成支援対策推進法に基づく法定計画としての位置付けに加え、こども基本法及び横浜市子ども・子育て基本条例に基づく「こども計画」及び子ども・若者育成支援推進法に基づく「子ども・若者計画」としても位置付けます。
- ◆ 本計画の計画期間は令和7（2025）年度から令和11（2029）年度までの5年間とします。
- ◆ 計画の対象は、心身の発達過程にある者とその家庭を対象とします。主に、生まれる前から乳幼児期を経て青少年期に至るまでの、おおむね20歳までのこどもとその家庭とします。若者の自立支援については39歳までを対象とするなど、施策の内容により、必要に応じて対象の年齢に幅を持たせ、柔軟な対応を行います。
- ◆ 横浜市中期計画をはじめ、子ども・子育て支援施策に関連する各分野の計画と連携・整合を図りながら、こどもや子育て家庭への支援を総合的に推進していきます。

## こども基本法、横浜市子ども・子育て基本条例と計画の位置付け

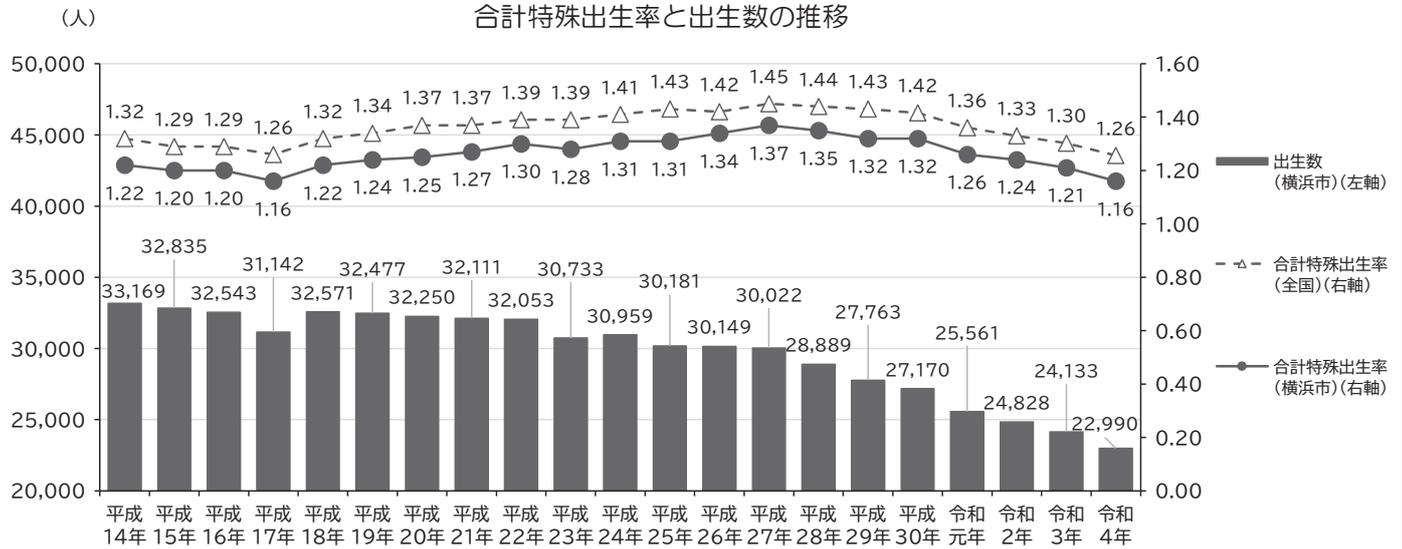
- 令和5年4月、新たに「こども基本法」が施行されました。この法では、日本国憲法や児童の権利に関する条約の精神にのっとり、すべてのこどもが、将来に渡って幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指し、こども政策を総合的に推進することを目的に、こども施策の基本理念のほか、こども大綱の策定、こども等の意見の反映、市町村こども計画の策定などについて定められました。また、令和5年12月には、こども基本法に基づき、「こども大綱」が閣議決定されました。「こども大綱」では、すべてのこどもが身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができる社会＝「こどもまんなか社会」の実現を目指しています。
- 令和7年4月には、「横浜市子ども・子育て基本条例」が施行されます。条例では、子ども・子育てについての基本理念として、「全てのおとなは、こども基本法の精神にのっとり、こどもがその個性と能力を十分に発揮でき、社会を構成する一員として、その年齢及び発達の程度に応じて意見が尊重される環境を整備することが、誰もが未来への希望が持てる活力ある社会を構築するための基盤である」という認識の下、相互に協力してこどもを育む社会の形成に取り組む」ことを掲げています。こども基本法に定められる市町村こども計画については、条例第8条において、「この条例を踏まえて策定する」こととしています。
- こども基本法、横浜市子ども・子育て基本条例の施行を踏まえて、改めて、本計画の法的根拠と位置付けを次のように整理します。

法的根拠	計画の位置付け
子ども・子育て支援法	市町村子ども・子育て支援事業計画
次世代育成支援対策推進法	市町村行動計画
こども基本法／横浜市子ども・子育て基本条例	市町村こども計画
子ども・若者育成支援推進法	市町村子ども・若者計画

## 第2章 こども・青少年や子育てを取り巻く状況

### 1 人口や少子化の状況

- ◆ 本市の出生数は減少傾向にあり、2022年時点で2.3万人です。1人の女性が一生のうちに生むこどもの数の指標「合計特殊出生率」は、2022年時点で、全国が1.26であるのに対して、本市は1.16と低い水準となっています。



### 2 こども・家庭の状況

- ◆ 未就学児のいる世帯では、父母共に就労している共働き世帯の割合は69%に上昇しています。未就労の母親は27%で、そのうち80%が就労意向があります。就業形態、働く場所や時間の多様化など、様々な働き方のニーズへの対応が求められています。
- ◆ 2023年度に教育・保育事業を利用している割合は0歳児は27%、1歳児は63%、2歳児は75%に上昇しました。
- ◆ 出産後、半年くらいまでの間に「子育てに不安を感じたり、自信を持てなくなったりしたこと」があった割合は72%となっています。未就学児のいる世帯では、子育てに関しての困りごとは、「子どものしかり方・しつけ」が56%、「仕事との両立」が46%、「子どもの教育」が39%、「経済的な負担」が38%となっています。
- ◆ 本市調査では、こどもを育てている現在の生活の満足度は未就学児保護者が74%、小学生保護者が61%で5年前と比較して低下しています。
- ◆ 本市調査（こども本人向けの質問）では、「建物の中で思いきり遊べる場所」「友だちとたくさんおしゃべりができる場所」「運動が思いきりできる場所」を求める声が多くなっています。
- ◆ 本市の児童虐待相談対応件数は2023年度で約1.4万件と増加傾向にあります。
- ◆ こども・若者や家庭が抱える困難や課題は、様々な要因が複合的に重なり合って、いじめ、不登校、自殺企図、ひきこもり、無業状態、孤独・孤立、非行といった様々な形態で表出しています。

### 3 地域・社会の状況

- ◆ 本市調査によると、日常の子育てを楽しく、安心して行うための重要なサポートとして、「子育てに対する周囲の理解の促進」を挙げた人が48%となっています。
- ◆ 保護者から、子育て支援サービスの電子化等のデジタル活用のニーズがあります。
- ◆ 日本語指導が必要な児童生徒数は、2024年には約4,200人と、2014年の約3倍に増加しています。

## 第3章 本市の目指すべき姿と基本的な視点

### 1 目指すべき姿

すべてのこどものウェルビーイングを社会全体で支え、未来を創るこども一人ひとりが、  
自分の良さや可能性を発揮し、豊かで幸せな生き方を切り拓(ひら)く力、  
共に温かい社会をつくり出していく力を育むことができるまち「よこはま」

### 2 計画推進のための基本的な視点

「目指すべき姿」の実現に向けて、次の7つを基本的な視点として、施策・事業を組み立て、推進します。

- 1 こどもの視点に立った支援：こどものより良い育ちを社会全体で支え、こどもの人権と最善の利益が尊重されるよう、こどもが意見を表明する機会を確保しながら、「こどもの視点」に立って、施策・事業の推進に取り組みます。
- 2 すべてのこどもへの支援：疾病や障害の有無にかかわらずこどもの健やかな育ちを等しく保障するため、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな支援と、必要となる支援を誰もが受けられる環境を整え、全てのこどもを支援する視点を持って取り組みます。
- 3 それぞれの発達段階に応じ、育ちや学びの連続性を大切にする一貫した支援：こども一人ひとりの発達段階に応じた育ちや学びが積み重なるよう、こどもの成長を長い目でとらえ、こどもの育ちや学びに関わる大人、関係機関、地域資源が連携しながら、支援の連続性・一貫性を大切にする視点を持って取り組みます。
- 4 こどもに内在する力を引き出す支援：こどもを多様な人格を持った個として尊重し、一人ひとりが自分の良さや可能性を見つめ、自己肯定感を高めながら内在する力を発揮することができるよう、その力を引き出していくという共感のまなざしと関わりを大切にする視点を持って取り組みます。
- 5 家庭の子育て力を高めるための支援：保護者が地域の中で温かく見守られ、支えられながら、妊娠、出産、子育てをするうえで、不安や負担感、孤立感を抱えることなく、こどもの成長の喜びや生きがいを感じながら子育てできるよう、家庭の子育て力を高めるための視点を持って取り組みます。
- 6 子育て世代の「ゆとり」を創り出すための支援：誰もが安心して出産・子育てができ、また、保護者が気持ちに余裕を持ってこどもに向き合うことで、親子の笑顔と幸せにつながるよう、子育て世代の「ゆとり」を創り出すための視点を持って取り組みます。
- 7 様々な担い手による社会全体での支援 ～自助・共助・公助～：「自助・共助・公助」の考え方を大切にしながら、社会におけるあらゆる担い手が、こども・子育て支援を課題としてとらえ、それぞれの立場で役割を担うと共に、様々な社会資源や地域との連携・協働を図りながら、社会全体での支援を進めていく視点を持って取り組みます。

## 第4章 施策体系と事業・取組

令和5年4月にこども基本法が施行され、市町村こども計画としても位置付けを行う最初の計画となること、「横浜市中期計画 2022-2025」では、基本戦略「子育てしたいまち次世代を共に育むまちヨコハマ」を掲げて、広く子育て世代に響く支援を進めていることを踏まえて、計画期間中、各施策分野を通して特に重きを置いて進める事項として、第3期計画では新たに2つの重点テーマを設定します。

「目指すべき姿」の実現に向けて、「計画推進のための基本的な視点」を踏まえ、2つの重点テーマ、3つの施策分野、9つの基本施策により、計画を推進します。

目指すべき姿	基本的な視点	重点テーマ／施策分野・基本施策											
<p>すべてのこどものウェルビーイングを社会全体で支え、未来を創ることも一人ひとりが、自分の良さや可能性を発揮し、豊かで幸せな生き方を切り拓(ひら)く力、共に温かい社会をつくり出し、いく力を育むことができるまち「よこはま」</p>	1 こどもの視点に立った支援	<table border="1"> <tr> <td>重点テーマⅠ</td> <td>すべてのこどものウェルビーイングを支える</td> </tr> </table>	重点テーマⅠ	すべてのこどものウェルビーイングを支える									
	重点テーマⅠ	すべてのこどものウェルビーイングを支える											
	2 すべてのこどもへの支援	<table border="1"> <tr> <td>重点テーマⅡ</td> <td>子育て家庭が実感できる「ゆとり」を生み出す</td> </tr> </table>	重点テーマⅡ	子育て家庭が実感できる「ゆとり」を生み出す									
	重点テーマⅡ	子育て家庭が実感できる「ゆとり」を生み出す											
	3 それぞれの発達段階に応じ、育ちや学びの連続性を大切にする一貫した支援	<table border="1"> <tr> <td rowspan="5">施策分野1 すべてのこども・子育て家庭への切れ目のない支援</td> <td>基本施策 1</td> <td>生まれる前から乳幼児期までの一貫した支援の充実</td> </tr> <tr> <td>基本施策 2</td> <td>地域における子育て支援の充実</td> </tr> <tr> <td>基本施策 3</td> <td>乳幼児期の保育・教育の充実と学齢期への円滑な接続</td> </tr> <tr> <td>基本施策 4</td> <td>学齢期から青年期までのこども・若者の育成施策の推進</td> </tr> <tr> <td>基本施策 5</td> <td>障害児・医療的ケア児等への支援の充実</td> </tr> </table>	施策分野1 すべてのこども・子育て家庭への切れ目のない支援	基本施策 1	生まれる前から乳幼児期までの一貫した支援の充実	基本施策 2	地域における子育て支援の充実	基本施策 3	乳幼児期の保育・教育の充実と学齢期への円滑な接続	基本施策 4	学齢期から青年期までのこども・若者の育成施策の推進	基本施策 5	障害児・医療的ケア児等への支援の充実
	施策分野1 すべてのこども・子育て家庭への切れ目のない支援	基本施策 1		生まれる前から乳幼児期までの一貫した支援の充実									
		基本施策 2		地域における子育て支援の充実									
基本施策 3		乳幼児期の保育・教育の充実と学齢期への円滑な接続											
基本施策 4		学齢期から青年期までのこども・若者の育成施策の推進											
基本施策 5		障害児・医療的ケア児等への支援の充実											
4 こどもに内在する力を引き出す支援	<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">施策分野2 多様な境遇にあるこども・子育て家庭への支援</td> <td>基本施策 6</td> <td>困難を抱えやすいこども・若者への支援施策の充実</td> </tr> <tr> <td>基本施策 7</td> <td>ひとり親家庭の自立支援／DV被害者や困難な問題を抱える女性への支援</td> </tr> <tr> <td>基本施策 8</td> <td>児童虐待防止対策と社会的養育の推進</td> </tr> </table>	施策分野2 多様な境遇にあるこども・子育て家庭への支援	基本施策 6	困難を抱えやすいこども・若者への支援施策の充実	基本施策 7	ひとり親家庭の自立支援／DV被害者や困難な問題を抱える女性への支援	基本施策 8	児童虐待防止対策と社会的養育の推進					
施策分野2 多様な境遇にあるこども・子育て家庭への支援	基本施策 6		困難を抱えやすいこども・若者への支援施策の充実										
	基本施策 7		ひとり親家庭の自立支援／DV被害者や困難な問題を抱える女性への支援										
	基本施策 8	児童虐待防止対策と社会的養育の推進											
5 家庭の子育て力を高めるための支援	<table border="1"> <tr> <td>施策分野3 社会全体でのこども・子育て支援</td> <td>基本施策 9</td> <td>社会全体でこども・若者を大切にする地域づくりの推進</td> </tr> </table>	施策分野3 社会全体でのこども・子育て支援	基本施策 9	社会全体でこども・若者を大切にする地域づくりの推進									
施策分野3 社会全体でのこども・子育て支援	基本施策 9	社会全体でこども・若者を大切にする地域づくりの推進											
6 子育て世代の「ゆとり」を創り出すための支援													
7 様々な担い手による社会全体での支援～自助・共助・公助～													

## 重点テーマⅠ すべてのこどものウェルビーイングを支える

### 背景

- ◆ こども・若者や家庭が抱える困難や課題は、様々な要因が複合的に重なり合って表出するため、こども・若者本人への支援に加え、保護者等を含め重層的にアプローチしていく必要があります。教育・保育、福祉、保健、医療等の関係機関・団体が密接に情報共有・連携を行う「横のネットワーク」と、ライフステージを通して支援を行う「縦のネットワーク」による包括的な支援体制の構築が求められています。
- ◆ すべてのこどもが、家庭や学校以外にも、安全で安心して過ごせる多くの居場所を持ちながら、そこで様々な遊びや学び、体験活動の機会に接することができ、自己肯定感を高められるよう、環境整備を進めていくことが必要です。
- ◆ 「こども基本法」を踏まえて、こどもが対象となる幅広い施策・事業において、当事者であるこども自身が直接意見を表明できる機会を積極的に取り入れることなどについて、本市全体で取り組んでいく必要があります。

### 方向性

- (1) 多機関連携によるこども・子育て家庭の安全・安心を支えるための基盤づくりと地域ネットワークの構築
- (2) こどもが安心して過ごせる居場所や遊び場・体験活動の充実
- (3) 年齢や発達に応じてこどもが意見を表明でき、その意見が尊重され、「こどもまんなか社会」に活かされる仕組み

指標(※1)	現状値(R5)		目標値(R11)
青少年の地域活動拠点等において利用者の自己肯定感が高まったと感じた割合	63%		70%
よこはま子ども・若者相談室の利用者アンケートで「気持ちが軽くなった」と回答した割合	68.4%		80%
「横浜市学力・学習状況調査」における生活・学習意識調査のうち、生活意識に関する次の各項目で肯定的に回答した割合 ①将来の夢や目標をもっていますか／②自分のことが好きですか／ ③自分にはよいところがあると思いますか	小学生 ①86.3% ②78.6% ③81.9%	中学生 ①71.0% ②71.7% ③78.2%	維持・向上

※1 アンケート調査はあくまで回答者本人の主観に基づくもので、ウェルビーイングの状況を把握するための1つの要素にはなりますが、これをもってこどものウェルビーイング全体を測るものではありません。こども大綱では、こども施策に関するデータの整備として、「こどもに着目したウェルビーイング指標の在り方について検討を進める」とされています。本市としても、国の動向を踏まえながら、より適切な指標について、引き続き研究していきます。

### 主な取組内容

包括的に支える地域ネットワーク	こどもの居場所・遊び場、体験活動の充実	こどもの思いや意見を聴き、尊重するための取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>● こども家庭センター機能の設置</li> <li>● 青少年相談センター事業</li> <li>● 困難を抱える若者に対する SNS 相談事業</li> <li>● ヤングケアラー支援事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● こども・若者の居場所づくり</li> <li>● こども・青少年の体験活動の推進</li> <li>● プレイパーク支援事業</li> <li>● 安全・安心な公園づくり</li> <li>● こども食堂等のこどもの居場所づくりに対する支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「よこはま☆保育・教育宣言～乳幼児の心もちを大切に～」を活用した取組の推進</li> <li>● こどもの意見を聴く取組の推進</li> <li>● 児童相談所等の相談・支援策の充実</li> </ul>

## 重点テーマII 子育て家庭が実感できる「ゆとり」を生み出す

### 背景

- ◆ 本市調査（未就学児保護者）で共働き世帯の割合は69%、両親共にフルタイム就労している割合は46%と共働き世帯が増加しています。子育てをされていて感じる困りごととして、「仕事との両立」を挙げた割合は、未就学児調査で46%と、仕事と家事・育児の両立に悩む家庭は少なくありません。
- ◆ 横浜市立大学と連携した「家庭と子育てに関するコホート研究（ハマスタディ）」によると、本市の両親共にフルタイム勤務をしている子育て家庭について、妻の家事時間が長くなるにつれて妻のウェルビーイングが低下する傾向となる調査結果が出ています。
- ◆ 保護者が時間的、精神的、経済的なゆとりをもって日々の生活を送ることは、保護者が子どもに向き合う時間を充実させることにつながります。また、保護者が子育てをするうえで、不安や負担感、孤立感を抱えることなく、子どもの成長の喜びや生きがいを感じることは、子どもの健やかな成長につながっていきます。
- ◆ 子育て世代の「ゆとり」は、子育て中の親子の笑顔や幸せ、生活満足度の向上に欠かせない要素の一つと言えます、中期計画の基本戦略に掲げた「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を実現していくためにも、子育て家庭のゆとりの創出に重点的に取り組んでいく必要があります。

### 方向性

- (1) 子育て家庭の「時間的負担感が軽減」されている
- (2) こどもの「預けやすさが実感」できている
- (3) 「小1の壁が打破」されている
- (4) 子育て家庭の「経済的負担感が軽減」されている
- (5) 子育ての困りごとがいつでも相談でき、「精神的負担感が軽減」されている
- (6) 子育て家庭がほしい情報に簡単にアクセスでき、「子育ての見通しが持てている」
- (7) 親子が「身近な遊び場・居場所で楽しむ」ことができている

指標	現状値(R5)	目標値(R11)
子育て家庭がゆとりを実感している割合		今後、現状値を把握し、目標値を設定したうえで原案に反映

### 主な取組内容

- 子育て応援アプリ「パマトコ」
- にもつ軽がる保育園事業
- 中学校給食事業
- 子育て応援アプリ「パマトコ」家事負担軽減のためのコンテンツ作成（よこはま楽家事応援団）
- 横浜子育てサポートシステム
- 保育・幼児教育の場の確保
- 一時預かり事業
- こども誰でも通園制度の実施
- 放課後キッズクラブ・放課後児童クラブにおける長期休業期間中の昼食提供
- 小学生の朝の居場所づくり事業
- 妊婦健康診査事業
- 小児医療費助成事業
- 妊婦のための支援給付
- 出産費用助成事業
- 妊産婦・こどもの健康医療相談事業
- 妊娠・出産相談支援事業
- 地域子育て支援拠点事業
- 地区センターにおける親子が集う身近な場の創出
- 親と子のつどいの広場事業
- 保育所子育てひろば・幼稚園はまっ子広場
- 子育て支援者事業
- 安全・安心な公園づくり
- こどもログハウスリノベーション
- 読書に親しむ機会の創出と図書館サービスの充実

## 基本施策1 生まれる前から乳幼児期までの一貫した支援の充実

### 現状と課題

- ◆ 若い世代の男女に向け、将来の妊娠・出産に備えて健康管理ができ、ライフプランを主体的に考えることができるよう、妊娠・出産・子育てに関する正しい知識の普及啓発等のプレコンセプションケアの取組を行うことが重要です。
- ◆ 「予期せぬ妊娠」等、妊娠・出産の悩みを一人で抱えることがないように、相談支援の体制等を充実させることが必要です。
- ◆ 妊娠中から専門的な相談支援を充実させると共に、特に産前産後に安定した生活が送れるよう、家事や育児のサポートを行う支援が重要です。妊娠期から乳幼児期を通じて母子の健康を確保し、切れ目のない保健対策を充実させると共に、地域の子育て支援に関わる人や医療機関等とのネットワークを築き、包括的な支援の環境づくりを進めることが重要です。
- ◆ より安心して安全な出産ができる環境づくりや小児救急医療体制の安定的な運用など、産科・周産期医療、小児医療の充実が求められています。

### 目標・方向性

- (1) 妊娠・出産・不妊に関する正しい知識の普及啓発や相談支援の充実
- (2) 妊娠期からの切れ目のない支援の充実
- (3) 乳幼児の健やかな育ちのための保健対策の充実
- (4) 安全・安心な妊娠・出産に向けた産科・周産期医療及び小児医療の充実

指標	現状値(R5)	目標値(R11)
「4か月健診の間診票」から育てにくさを感じている方が、相談先を知っているなど、解決方法を知っている割合	78.7%	81.6%
「3歳児健診の間診票」から育てにくさを感じている方が、相談先を知っているなど、解決方法を知っている割合	80.4%	83.0%

### 主な事業・取組

- 思春期保健指導事業
- 妊娠・出産相談支援事業
- 妊婦健康診査事業
- 産科・周産期医療の充実
- 小児医療費助成事業
- 妊婦のための支援給付
- 出産費用助成事業
- 妊産婦・乳幼児にかかる災害対策事業
- こんにちは赤ちゃん訪問事業
- 産後母子ケア事業
- 産前産後ヘルパー派遣事業
- 産婦健康診査事業
- 乳幼児健康診査事業等
- 妊産婦・こどもの健康医療相談事業

## 基本施策2 地域における子育て支援の充実

### 現状と課題

- ◆ 身近な場所に気軽に相談できる場が求められています。
- ◆ 見通しを持ち、安心して子育てをスタートできるよう妊娠期からの支援も重要です。また、妊娠期間から地域の親子の居場所を周知すると共に、保護者同士の仲間づくりや、父親の育児参加への対応も求められています。
- ◆ これから親になる世代も含めて、様々な世代に子育て家庭に目を向けてもらい、「子育てを温かく見守る地域づくり」を進めていくことが必要です。こども家庭センターと地域資源が連携して「地域づくり」を念頭に置いた支援を展開する必要があります。

### 目標・方向性

- (1) 妊娠期からの支援と親子が集える場や機会の充実
- (2) 幼児期の豊かな「遊びと体験」の提供
- (3) 保護者・養育者が気軽に相談できる場や機会の確保
- (4) 地域における子育て支援の質の向上
- (5) 地域ぐるみでこども・子育てを温かく見守る環境づくり

指標	現状値(R5)	目標値(R11)
「利用ニーズ把握のための調査」において、親子の居場所を「利用している」「過去に利用していた」と回答した割合	50.6%	57% (R10)
「利用ニーズ把握のための調査」において、現在の子育てについて、不安を感じたり、自信が持たなくなることが「よくあった」「時々あった」と回答した割合	58.3%	55% (R10)
「利用ニーズ把握のための調査」において、子育てをしていて地域社会から見守られている、支えられていると「感じる」「どちらかといえばそう感じる」と回答した割合	32.4%	55% (R10)

### 主な事業・取組

- 地域子育て支援拠点事業
- 地域子育て支援拠点における利用者支援事業
- 地区センターにおける親子が集う身近な場の創出
- 地域子育て相談機関の設置
- 親と子のつどいの広場事業
- 保育所子育てひろば、幼稚園はまっ子広場事業
- 子育て支援者事業
- 未就学児に向けた「遊びと体験」ができる環境・機会の提供
- 体系化された研修による、地域子育て支援スタッフの育成
- 子育て応援アプリ「パマトコ」
- 横浜子育てサポートシステム
- 子育て家庭応援事業（愛称「ハマハグ」）
- こども家庭センター機能の設置

## 基本施策3 乳幼児期の保育・教育の充実と学齢期への円滑な接続

### 現状と課題

- ◆ 乳幼児期は、生涯にわたるウェルビーイングの土台として最重要な時期です。「よこはま☆保育・教育宣言」の理念を周知し、保護者と保育・教育施設等が両輪でこどもの育ちを支えていく必要があります。
- ◆ 障害のあるこども、医療的ケアが必要なこどもが、それぞれの特性や発達に応じて、保育・教育を受けられるよう職員体制や受入れ環境を整えていくことが求められています。
- ◆ 幼児教育と小学校教育の円滑な接続のため、「幼保小の架け橋プログラム」を踏まえ、地域に応じた接続期カリキュラムの実施・改善が必要です。
- ◆ 保育の利用を希望する世帯の割合は増加傾向にあります。一方で、年齢や地域によって定員割れが発生するなどニーズの変化に合わせた取組が必要です。
- ◆ 保育・幼児教育を担う人材の確保に加え、定着を図るため、保育所運営に係る業務を省力化し、保育の質の向上や働きやすさにつなげる必要があります。
- ◆ 保育所を利用していないこどもを一時的に預けたいというニーズが低年齢児を中心に増加しています。一時預かり施設を更に拡充していくなど、ニーズへの対応が必要です。

### 目標・方向性

- (1) 保育・幼児教育の質の確保・向上
- (2) 個別に支援が必要な児童に対する支援
- (3) 保育所、幼稚園、認定こども園から学校への円滑な接続
- (4) 保育・幼児教育の場の確保
- (5) 保育・幼児教育を担う人材の確保
- (6) 多様なニーズへの対応と充実

指標	現状値(R5)	目標値(R11)
待機児童数	5人 (R6年4月1日)	0人
こどもの思いや主体性を尊重した保育・教育を実践している施設等の割合※1	今後、現状値を把握し、目標値を設定したうえで原案に反映	

※1 「(仮)『よこはま☆保育・教育宣言』に基づく保育実践アンケート」で確認

### 主な事業・取組

- 「よこはま☆保育・教育宣言～乳幼児の心もちを大切に～」を活用した取組の推進
- 「保育・幼児教育センター（仮称）」の整備
- 保育・教育施設等における障害のあるこども／医療的ケアが必要なこどもの受入れ推進
- 幼稚園、保育所、認定こども園と小学校との円滑な接続
- 保育・幼児教育の場の確保
- 私立幼稚園2歳児受入れ推進事業
- 保育・教育コンシェルジュ事業
- 保育所等の利用におけるオンライン申請の推進
- 保育士の採用、定着に課題を抱える園への支援
- 将来の担い手の確保と潜在保育士の復職支援
- 延長保育事業
- 一時預かり事業
- こども誰でも通園制度の実施
- 病児保育事業、病後児保育事業

## 基本施策4 学齢期から青年期までのこども・若者の育成施策の推進

### 現状と課題

- ◆ 地域のつながりの希薄化、少子化の進展等により、こども・若者同士が遊び、育ち、学び合う機会が減少しています。
- ◆ すべてのこども・若者の健やかな成長に向け、安全・安心で自分らしく過ごせる居場所をつくる必要があります。ライフスタイルや価値観の多様化など様々なニーズに応じた居場所が求められています。
- ◆ こどもの健やかな成長のためには、家庭環境等こどもの置かれた状況によらず、多様な体験ができることが重要であり、社会全体でこども・若者の体験活動を支援する必要があります。
- ◆ すべてのこどもが放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、放課後児童施策を推進していく必要があります。
- ◆ こども・若者の健やかな成長のためには、地域の中で多様な世代と交流することで、社会性や自主性を育むことが重要です。
- ◆ こども・若者の視点を尊重し、その意見が十分反映される環境づくりに努めると共に、こども・若者の社会参画を促進していくことが求められています。

### 目標・方向性

- (1) 小学生のより豊かな放課後等の居場所づくり
- (2) いわゆる「小1の壁」の打破
- (3) こども・若者の成長を支える基盤づくり
- (4) こども・若者の成長を見守り、支える地域社会づくり
- (5) こども・若者の人権を守る取組の推進とこども・若者の意見の反映

指標	現状値(R5)	目標値(R11)
放課後キッズクラブ・放課後児童クラブを利用する児童へのアンケートのうち、「クラブは楽しいですか」の項目で「楽しい」「どちらかという楽しい」と回答した児童の割合	89%	95%
青少年の地域活動拠点等において利用者の自己肯定感が高まったと感じた割合	63%	70%
地域で青少年育成の連携・協働を促進するため、(公財)よこはまユースが支援を行った団体数	757 団体	877 団体

### 主な事業・取組

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 放課後児童育成事業</li> <li>● 放課後児童育成事業における障害児・医療的ケア児の受入れ推進</li> <li>● 放課後キッズクラブ・放課後児童クラブにおける長期休業期間中の昼食提供</li> <li>● 小学生の朝の居場所づくり事業</li> <li>● こども・若者の居場所づくり</li> <li>● こども・青少年の体験活動の推進</li> <li>● プレイパーク支援事業</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全・安心な公園づくり</li> <li>● こどもログハウスリノベーション</li> <li>● 子どもの文化体験推進事業</li> <li>● 子どものスポーツ活動支援事業・スポーツ分野における学校訪問事業・トップスポーツチーム連携事業</li> <li>● 子どもアドベンチャーカレッジ事業</li> <li>● 中学校給食事業</li> <li>● こども食堂等のこどもの居場所づくりに対する支援</li> <li>● こども・若者の意見を反映した事業の実施</li> </ul> |
|--|---|

## 基本施策5 障害児・医療的ケア児等への支援の充実

### 現状と課題

- ◆ 障害や療育等に係る多くの情報が様々な媒体を通じて行き交うなか、障害児等との関わり方等について、保護者や関係者の悩みや不安に寄り添い、適切な情報提供や診療を含む支援の体制づくりが求められています。また、地域療育センターにおいて、必要とすることもが、必要な支援を適切な時期に受けられるような支援のあり方が求められています。
- ◆ 障害児通所支援のニーズが増加し、事業所数も増えていますが、サービスの質の向上等への支援が必要です。また、重症心身障害児や医療的ケア児が安心して利用できる体制の充実が求められています。
- ◆ 障害児相談支援や、入所施設における障害特性に応じた支援等の充実により、成人期の生活への移行がスムーズに行われるよう早期から成人期を見据えた支援を行うことが重要です。
- ◆ 医療的ケア児等が安心して生活できるよう、コーディネーターと関係機関が連携し、保育・教育・福祉分野での受入れ推進、家族の負担軽減の取組、必要な支援につなげる取組等が求められています。
- ◆ 放課後等デイサービスなどの障害児通所支援事業所と学校の連携等により、切れ目のない支援を実現するため、関係機関全体で支援を行う体制づくりが求められています。
- ◆ 障害や医療的ケアの有無にかかわらず、こどもの意見を聴く取組を推進すること、社会全体の障害等への理解を深めていくことが重要です。

### 目標・方向性

- (1) 地域療育センターを中心とした地域における障害児支援の充実
- (2) 将来の自立等に向けた療育と教育の連携等による切れ目のない支援の充実
- (3) 障害児相談支援をはじめとする相談支援の充実
- (4) 障害児入所施設的环境向上と入所児童の地域移行の推進
- (5) 医療的ケア児や重症心身障害児等への支援の充実
- (6) こどもの意見を聴く取組等の推進と、障害への理解促進

指標	現状値(R5)	目標値(R11)
地域療育センターが実施する保育所等への巡回訪問回数	2,496回	3,500回
保育所等医療的ケア児支援看護師研修受講者アンケートで研修内容が日頃の業務に活用できると回答した割合	91.8%	100%

### 主な事業・取組

- 地域療育センター運営事業
- 保育・教育施設等における障害のあるこども／医療的ケアが必要なこどもの受入れ推進（再掲）
- 放課後児童育成事業における障害児・医療的ケア児の受入れ推進（再掲）
- 障害児相談支援をはじめとする相談支援の推進
- 療育と教育との連携強化等による学齢期の障害児支援の充実
- 障害児通所支援事業所等の拡充と質の向上
- 障害児入所施設的环境向上と入所児童の地域移行の推進
- 医療的ケア児・者等支援促進事業の推進
- メディカルショートステイ事業の推進
- 小児がん患者のがん対策の推進
- 小児慢性特定疾病医療給付事業
- こどもの意見を聴く取組の推進
- 市民の障害理解の促進

## 基本施策6 困難を抱えやすい子ども・若者への支援施策の充実

### 現状と課題

- ◆ 貧困などの養育環境の課題や、いじめ、不登校、ひきこもり、無業など複合的課題を抱えている子ども・若者や家族が社会的に孤立している状況があります。地域と連携しながら早期に世帯の変化に気づき、支援機関につないでいくことが重要です。
- ◆ 令和4年度の本市調査では、市内のひきこもり状態にある15歳から39歳の子ども・若者は約13,000人と推計されています。早期把握とプッシュ型の支援、本人と家族への支援、当事者同士の支えあいによるサポート、地域や社会の理解促進や見守りが求められます。
- ◆ 「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」であるヤングケアラーは、子ども・若者らしい生活が送れずにつらい思いをするだけでなく、将来にも影響を及ぼす可能性があります。子ども・若者の意向に寄り添いながら、世帯全体を支援していく視点を持った支援体制の構築が必要です。

### 目標・方向性

- (1) 子ども・若者を社会全体で見守り、悩みや課題の早期発見・早期支援につなげる環境づくり
- (2) 世帯全体を視野に入れた子ども・若者への支援の充実
- (3) 切れ目ない支援を実現するための関係機関等の連携

指標	現状値(R5)	目標値(R11)
青少年相談センター、地域ユースプラザ、若者サポートステーションの支援による改善者数	1,539人/年	7,700人(累計)
よこはま子ども・若者相談室の利用者アンケートで「気持ち軽くなった」と回答した割合	68.4%	80%
ヤングケアラー支援研修等の受講者数	998人/年	6,000人(累計)

### 主な事業・取組

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 青少年相談センター事業</li> <li>● 地域ユースプラザ事業</li> <li>● 若者サポートステーション事業</li> <li>● 困難を抱える若者に対するSNS相談事業(よこはま子ども・若者相談室)</li> <li>● ヤングケアラー支援事業</li> <li>● 子ども・若者の意見を聴く取組の推進</li> <li>● 不登校児童生徒支援事業</li> <li>● 不登校の子ども等困難を抱えやすい子どもの居場所づくり</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域等と連携したいじめ等の防止</li> <li>● 外国につながる子どもたちへの支援事業</li> <li>● 寄り添い型生活支援事業</li> <li>● 寄り添い型学習支援事業</li> <li>● 放課後学び場事業</li> <li>● 経済的に困難を抱える世帯への就学援助等</li> <li>● 自殺対策事業</li> </ul> |
|--|--|

## 基本施策7 ひとり親家庭の自立支援／DV 被害者や困難な問題を抱える女性への支援

### 現状と課題

- ◆ 令和2年の国勢調査によると、本市のひとり親家庭は 22,635 世帯で、母子家庭が 19,481 世帯、父子家庭が 3,154 世帯です。本市調査では、母子家庭の約9割が就労していますが、就労していると回答した方のうち約4割が非正規雇用で、生活費に関する悩みが多くなっています。
- ◆ ひとり親家庭の背景として、DV、児童虐待、疾病や障害など複合的な課題を抱える場合があり、個別の事情に寄り添った支援が必要です。また、ひとり親家庭の社会的孤立を防ぐため、当事者同士や地域のつながり、民間支援等、多面的なアプローチが重要です。
- ◆ 離別の場合、こどもの立場に立った、養育費の取り決めや親子交流の調整が必要です。
- ◆ 令和5年度のDV相談件数は 4,527 件でした。女性緊急一時保護件数が減少傾向にある中、緊急一時保護が必要な場合に、相談者のニーズにも応えながら、安全性が確保できる支援策が必要です。
- ◆ 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の趣旨を踏まえながら、DVも含めた困難な課題を抱える女性への包括的な切れ目ない支援が必要です。

### 目標・方向性

- (1) ひとり親家庭の経済的・時間的な困難を軽減するための総合的な自立支援
- (2) ひとり親家庭のこどもに対する学習支援などの直接的なサポート充実と意見表明機会の提供
- (3) DV被害者や困難を抱える女性とそのこどもへの安全・安心の確保、自立支援
- (4) 支援に関わる職員の資質向上、体制の強化及び啓発等

指標	現状値(R5)	目標値(R11)
ひとり親サポートよこはま等の支援により就労に至ったひとり親の数	345 人／年	1,800 人 (累計)
思春期接続期支援事業の事後アンケートで「将来の夢や就職について目標がある」と回答したこどもの割合	68.1%	70.0%
DVに関する相談件数	4,527 件	5,000 件

### 主な事業・取組

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童扶養手当</li> <li>● ひとり親家庭自立支援給付金事業</li> <li>● 母子家庭等就業・自立支援センター事業（ひとり親サポートよこはま）</li> <li>● 日常生活支援事業（ヘルパー派遣）</li> <li>● 養育費確保支援事業</li> <li>● 思春期・接続期支援事業</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 母子生活支援施設</li> <li>● こどもの意見を聴く取組の推進</li> <li>● 女性相談保護事業</li> <li>● DV被害者支援</li> <li>● 女性緊急一時保護施設補助事業</li> <li>● 若年女性支援モデル事業</li> <li>● デートDV防止事業</li> </ul> |
|---|---|

## 基本施策8 児童虐待防止対策と社会的養育の推進

### 現状と課題

- ◆ 本市では「横浜市子供を虐待から守る条例」に基づきこどもの命を守るための施策を総合的に推進しています。令和5年度の児童虐待相談対応件数は14,035件で、死亡事例を含む重篤事例も依然発生しています。早期発見・早期対応、迅速・的確な対応、継続支援等を適切に行う体制の充実が必要です。
- ◆ 令和6年施行の改正児童福祉法に基づき、こども家庭センター機能を全区に段階的に設置し、妊産婦、こども、家庭への一体的な支援を行う体制を構築していきます。
- ◆ 児童相談所の体制強化や区役所の機能強化を行い、予期しない妊娠や特定妊婦の支援、こどもの意見を聴取する機会の確保、一時保護所の環境改善や児童の学習支援の取組が必要です。
- ◆ 里親等への委託数は増加傾向であり、里親支援センターの設立やファミリーホームの増設などの支援体制の充実が必要です。児童養護施設の多機能化・高機能化や、施設等退所者が安定した生活を送るための支援も求められます。
- ◆ 社会的養護下にあるこどもの意見を表明する機会の確保が必要です。

### 目標・方向性

- (1) 児童虐待対策の総合的な推進
- (2) 児童虐待対応の支援策と児童相談所の機能強化
- (3) 社会的養育の推進
- (4) こどもの意見表明機会の確保と権利擁護の取組の推進

指標	現状値(R5)	目標値(R11)
児童虐待による死亡者数	2人	0人
こども家庭センター設置数	3か所 (R6)	18か所
合同ケース会議での協議件数(妊産婦、こども、子育て家庭に対する一体的支援の実施数)	—	30,000件
里親委託率	20.7%	36.3%
里親登録者数	277組	324組
ファミリーホーム設置数	8か所	10か所

### 主な事業・取組

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 区の要保護児童対策地域協議会の機能強化</li> <li>● 妊娠・出産相談支援事業(再掲)</li> <li>● こども家庭センター機能の設置(再掲)</li> <li>● 学校・医療機関との連携強化</li> <li>● 児童虐待防止の広報・啓発</li> <li>● 養育支援家庭訪問事業</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 親子関係形成支援事業</li> <li>● 児童相談所等の相談・支援策の充実</li> <li>● 一貫した社会的養護体制の充実</li> <li>● 里親等委託の推進</li> <li>● 子育て短期支援事業</li> <li>● こどもの意見を聴く取組の推進</li> </ul> |
|---|---|

## 基本施策9 社会全体で子ども・若者を大切にできる地域づくりの推進

### 現状と課題

- ◆ 共働き世帯が増加し、また、男性の長時間労働は改善傾向にありますが、家事や育児等にあてる時間はまだ女性に偏っています。男性の育児休業取得率は令和5年で約4割となりましたが、1か月未満の取得が7割弱となっています。また、晩婚化・晩産化を背景に、育児・介護が重なるダブルケアと仕事を両立できる環境づくりの必要性も高まっています。
- ◆ 本市調査によると、「子育てをされていて、地域社会から見守られている、支えられている」と感じる未就学児の保護者は約3割です。妊産婦や乳幼児を連れた家庭への配慮などが自然と行われるような、子どもや子育て家庭を社会全体で支える気運を醸成していく必要があります。子どもや子育て世帯・妊娠中の方の目線で安全・安心・快適に生活を送ることができる環境の整備や、居場所の更なる充実が求められています。
- ◆ 横浜市子ども・子育て基本条例では、子どもがその年齢発達の程度に応じて、意見を表明する機会を確保し、その意見を施策に反映させるよう努めることとされました。子どもの意見聴取や施策への反映は、適切な手法やタイミングを工夫・選択し、継続的に取り組むことが必要です。

### 目標・方向性

- (1) 多様で柔軟な働き方と子育ての推進
- (2) 子どもを大切にできる社会的な気運の醸成と安全・安心な地域づくり
- (3) こどもの意見を施策・事業に生かす取組の推進

指標	現状値(R5)	目標値(R11)
市内事業所における男性の育児休業取得率	40.6%	40.6%以上 ※1
子育て環境が整っていることを理由に、横浜に住み続けたいと考える子育て世帯等の割合	15.2%	20%

※1：関連計画である横浜市男女共同参画行動計画と連動するため、令和8年度開始予定の次期横浜市男女共同参画行動計画の指標との整合を図り、本計画の目標値として改めて設定します。

### 主な事業・取組

- 共に子育てをするための家事・育児支援
- 誰もが働きやすい職場環境づくりの推進
- 子育て応援アプリ「パマトコ」(再掲)
- 子育て応援アプリ「パマトコ」家事負担軽減のためのコンテンツ作成(よこはま楽家事応援団)
- 結婚を希望する人や子の結婚を希望する保護者向けの啓発・情報提供
- 福祉のまちづくり推進事業
- 地域子育て応援マンションの認定
- 安全・安心な公園づくり(再掲)
- 読書に親しむ機会の創出と図書館サービスの充実
- 地域防犯活動支援事業
- こどもの交通安全対策の推進
- よこはま学援隊事業
- 安全教育・防災対策の推進
- こどもの意見を聴く取組の推進

## 第5章 保育・教育及び地域子ども・子育て支援事業に関する量の見込み・確保方策

- ◆ 本計画では、子ども・子育て支援法に基づき、保育・教育及び地域子ども・子育て支援事業について、5年間の「量の見込み」（利用に関するニーズ量）及び「確保方策」（量の見込みに対応する確保量と実施時期）を定めることとなっています。
- ◆ 令和5年度に実施した「横浜市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ把握のための調査」の結果や各事業の利用実績等を踏まえ、量の見込みを算出すると共に、それに対応するための確保方策を策定します。

### 1 保育・教育に関する施設・事業

（単位：人）

年度		令和7年度					令和8年度				
教育・保育給付認定区分(※1)		3号			2号	1号	3号			2号	1号
年齢		0歳	1歳	2歳	3-5歳	3-5歳	0歳	1歳	2歳	3-5歳	3-5歳
量の見込み		6,281	13,862	14,812	49,018	27,561	6,249	14,164	14,830	47,436	26,812
3歳未満児の保育利用率		51.1%					52.1%				
確保方策	認定こども園・保育所・施設型給付幼稚園 ・企業主導型保育事業	5,620	11,961	12,941	48,996	19,803	5,583	12,182	12,943	47,415	18,132
	私学助成幼稚園					17,669					16,112
	地域型保育・横浜保育室	661	1,901	1,871	22		666	1,982	1,887	21	
	計	6,281	13,862	14,812	49,018	37,472	6,249	14,164	14,830	47,436	34,244

年度		令和9年度					令和10年度				
教育・保育給付認定区分(※1)		3号			2号	1号	3号			2号	1号
年齢		0歳	1歳	2歳	3-5歳	3-5歳	0歳	1歳	2歳	3-5歳	3-5歳
量の見込み		6,217	14,466	14,848	45,854	26,063	6,185	14,768	14,866	44,272	25,314
3歳未満児の保育利用率		52.0%					51.9%				
確保方策	認定こども園・保育所・施設型給付幼稚園 ・企業主導型保育事業	5,546	12,403	12,945	45,834	16,463	5,509	12,623	12,948	44,253	14,791
	私学助成幼稚園					14,553					12,997
	地域型保育・横浜保育室	671	2,063	1,903	20		676	2,145	1,918	19	
	計	6,217	14,466	14,848	45,854	31,016	6,185	14,768	14,866	44,272	27,788

年度		令和11年度				
教育・保育給付認定区分(※1)		3号			2号	1号
年齢		0歳	1歳	2歳	3-5歳	3-5歳
量の見込み		6,154	15,069	14,885	42,692	24,561
3歳未満児の保育利用率		51.7%				
確保方策	認定こども園・保育所・施設型給付幼稚園 ・企業主導型保育事業	5,471	12,846	12,950	42,674	13,122
	私学助成幼稚園					11,439
	地域型保育・横浜保育室	683	2,223	1,935	18	
	計	6,154	15,069	14,885	42,692	24,561

※1 「教育・保育給付認定区分」

- 1号：3歳から小学校就学前であって保育の必要性がないこどもに相当するもの
- 2号：3歳から小学校就学前であって保育の必要性があるこどもに相当するもの
- 3号：満3歳未満であって保育の必要性があるこどもに相当するもの

## 2 地域子ども・子育て支援事業

子ども・子育て支援法上の事業区分	本市事業		単位	上段：量の見込み、下段：確保方策				
				令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
妊婦に対して健康診査を実施する事業	妊婦健康診断事業		延べ受診回数 (回/年)	285,830	288,831	291,828	294,828	298,317
				285,830	288,831	291,828	294,828	298,317
乳児家庭全戸訪問事業	こんにちは赤ちゃん訪問事業		訪問件数 (件/年)	22,626	22,795	23,069	23,351	23,567
				22,626	22,795	23,069	23,351	23,567
			訪問率 (%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
				100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
子育て短期支援事業	ショートステイ		延べ利用者数 (人/年)	712	746	779	812	845
				712	746	779	812	845
	トワイライトステイ		延べ利用者数 (人/年)	5,134	5,285	5,436	5,587	5,738
				5,134	5,285	5,436	5,587	5,738
	母子生活支援施設 緊急一時保護事業		延べ利用世帯数 (世帯/年)	92	92	92	92	92
				92	92	92	92	92
養育支援訪問事業及び 要保護児童 対策地域協議会 その他の者による 要保護児童等に対する 支援に資する事業	育児支援家庭訪問事業	家庭訪問	延べ実施回数 (世帯/年)	407	407	407	407	407
				407	407	407	407	407
		ヘルパー	延べ実施回数 (回/年)	2,225	2,232	2,231	2,237	2,240
				2,225	2,232	2,231	2,237	2,240
	養育支援家庭訪問事業	家庭訪問	延べ実施回数 (回/年)	4,313	4,607	4,902	5,195	5,490
				4,313	4,607	4,902	5,195	5,490
		ヘルパー	延べ実施回数 (回/年)	8,882	9,038	9,196	9,349	9,504
				8,882	9,038	9,196	9,349	9,504
	要保護児童対策地域協議会(児童虐待 防止啓発地域連携事業の一部)		検討会議件数 (件/年)	1,966	1,983	1,999	2,013	2,035
				1,966	1,983	1,999	2,013	2,035
親子関係形成支援事業		実人数 (人/年)	271	275	284	291	300	
			30	90	150	210	300	
病児保育事業	病児保育事業		実施箇所数 (か所)	30	30	30	30	30
				30	30	30	30	30
利用者支援に 関する事業	横浜子育てパートナー		実施箇所数 (か所)	28	28	28	28	28
				28	28	28	28	28
	保育・教育コンシェルジュ		実施箇所数 (か所)	18	18	18	18	18
				18	18	18	18	18
	統括支援員		実施箇所数 (か所)	18	18	18	18	18
				調整中	18	18	18	18
	母子保健コーディネーター		実施箇所数 (か所)	18	18	18	18	18
				18	18	18	18	18
こども支援員		実施箇所数 (か所)	18	18	18	18	18	
			18	18	18	18	18	
時間外保育事業	延長保育事業(夕延長)		利用者数 (人/月)	3,694	3,589	3,480	3,378	3,273
				3,694	3,589	3,480	3,378	3,273
放課後児童 健全育成事業	放課後キッズクラブ(一部)、 放課後児童クラブ		対象児童数(人)	34,847	34,047	33,245	32,446	31,600
				定員数(人)	42,437	41,463	40,487	39,514
地域子育て支援 拠点事業	地域子育て支援拠点、親と子のつどいの広場、保育所等子育てひろば、幼稚園等はまっ子広場等		延べ利用者数 (人/月)	61,773	65,549	69,325	73,101	76,878
				61,773	65,549	69,325	73,101	76,878
一時預かり事業、 子育て援助活動 支援事業	幼稚園での預かり保育(1号)		延べ利用者数 (人/年)	184,862	191,917	198,972	206,027	213,082
				184,862	191,917	198,972	206,027	213,082
	幼稚園での預かり保育(2号)		延べ利用者数 (人/年)	1,962,033	2,029,203	2,096,373	2,163,543	2,230,713
				1,962,033	2,029,203	2,096,373	2,163,543	2,230,713
	その他(保育所での一時保育、乳幼児一時預かり、親と子のつどいの広場での一時預かり、横浜子育てサポートシステム、24時間型緊急一時保育、休日一時保育)		延べ利用者数 (人/年)	318,067	341,366	364,664	387,963	411,262
				318,067	341,366	364,664	387,963	411,262

### 1 様々な主体による計画の推進

- ◆ 本市におけるこども・子育て支援は、様々な担い手によって支えられ、様々な地域で展開されると共に、行政との協働も積極的に推進されてきました。
- ◆ 本計画は素案の作成段階から、「横浜市子ども・子育て会議条例」で定める附属機関である「子ども・子育て会議」で議論を重ねてきました。また、子育て世帯やこども本人を対象としたニーズ調査の実施や、市内全区における市民意見交換会の開催などを通じて、幅広く御意見をいただきました。
- ◆ これからも「自助・共助・公助」の考え方を大切に、あらゆる担い手が、こども・子育て支援を社会全体の課題としてとらえ取組を進めていただけるよう、市民、関係者の皆様と連携・協働し、計画を推進していきます。

### 2 こどもの意見を施策へ反映するための体制整備

- ◆ 横浜市こども・子育て基本条例の施行に合わせ、本市におけるこどもの意見表明の機会の確保と施策への反映を進めるために必要な体制の整備を行います。
- ◆ 取組の実効性を高めていくために、施策を所管する各部署が、取組の目的や好事例を共有しながら、各施策の特性に合わせ、こどもの意見聴取と施策への反映を進めていくことが重要です。先進事例に関する情報収集と実践を通じた課題の把握や改善の取組を継続して進めていきます。

### 3 計画の点検・評価等

- ◆ 計画に定める事業・取組の内容や事業量等については、社会情勢や新たに把握したデータに基づくニーズ等を踏まえ、毎年度、必要な見直しを行います。
- ◆ 子ども・子育て会議は、こども・子育て支援施策の総合的・計画的な推進に関して必要な事項や施策の実施状況等を調査審議する場として位置付けられています。引き続き計画のPDCAサイクルの確保に努め、子ども・子育て会議で、計画の実施状況について毎年度の点検・評価や計画の中間見直しを実施していきます。

### 4 こども・子育て支援に関わる人材の確保・育成の推進

- ◆ 専門機関や地域資源同士が連携しながら、こども・子育て家庭を包括的に支援していくことが求められています。各区のこども家庭センターが中心となり、専門機関や地域資源同士の恒常的なつながりをより一層充実できるように、地域資源間のネットワーク化の促進に取り組んでいきます。
- ◆ こども・子育て支援を担う職員や地域の担い手の確保・育成等に取り組み、支援の充実を進めていきます。

### 5 こども・子育て支援に関する情報発信や情報提供の推進

- ◆ スマートフォン一つで子育てに関する手続や情報収集などが可能となる、子育て応援アプリ「パマトコ」を令和6年度にリリースしました。今後も必要な情報を必要な人に届けられるよう開発を進めていきます。
- ◆ こどもたち本人に対しては、市のこども・子育て支援施策に関心を持ってもらうと共に、意見を表明する機会が確保されていることなどについて周知を進めていきます。
- ◆ こどもまんなか社会の実現のため、こどもや子育て当事者のみならず、あらゆる人が理解を深め、行動に移していくことができるよう、社会全体でこどもを見守り、こどもを大切にするための気運の醸成に向けた情報発信・情報提供にも取り組んでいきます。

## こども、みんなが主役！よこはまわくわくプラン（素案）全文の閲覧方法

- 素案の全文は、横浜市こども青少年局企画調整課ホームページからご覧いただけます。

第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画

検索

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/org/kodomo/sonota/shingikai/kosodate/dai3kikeikaku.html>

- 次の場所で、素案の全文を冊子でご覧いただけます。

○区役所広報相談係・こども家庭支援課

○市民情報センター（横浜市庁舎3階）

○こども青少年局企画調整課（横浜市庁舎13階）

## 意見提出方法（募集期間：令和6年10月17日（木）から令和6年11月15日（金）まで）

いずれかの方法で、ご意見をお寄せください。

- 横浜市電子申請・届出システムでのご意見提出

次の二次元コードからアクセスし、ご入力ください。

<https://shinsei.city.yokohama.lg.jp/cu/141003/ea/residents/procedures/apply/9db15a6e-bfae-4f8b-9bae-6221c2c29118/start>



- 電子メール

氏名、住所（区名まで）、年代、素案へのご意見を記載のうえ、

件名に【パブリックコメント】と入れて、次の電子メールアドレスに送信してください。

送付先アドレス：kd-kikaku@city.yokohama.jp

- 郵送

氏名、住所（区名まで）、年代、素案へのご意見を記載のうえ、お送りください。

書式は問いません。（郵送の場合は、11月15日消印有効とさせていただきます。）

郵送先：〒231-0005 横浜市中区本町 6-50-10 横浜市こども青少年局企画調整課 あて

- F A X

氏名、住所（区名まで）、年代、素案へのご意見を記載のうえでお送りください。

書式は問いません。 F A X 番号：045-663-8061

### 【ご留意いただきたいこと】

- いただいたご意見の概要と、それに対する本市の考え方をまとめ、後日、ホームページで公表します。

ご意見への個別の回答はいたしませんので、ご了承ください。

なお、第三者の利益を害する恐れのあるものなど内容により公表しない場合があります。

- ご意見を正確に把握する必要があるため、電話によるご意見は受け付けておりません。

- ご意見の提出に伴い取得したメールアドレス、F A X 番号等の個人情報は「個人情報の保護に関する法律」の規定に従い適正に管理し、ご意見の内容に不明な点があった場合等の連絡・確認の目的に限って利用します。

### 【お問合せ先】

横浜市こども青少年局企画調整課

☎ 045-671-4281 FAX 045-663-8061 ✉ kd-kikaku@city.yokohama.jp

# こども、みんなが<sup>しゅやく</sup>主役！よこはまわくわくプラン

だい きよこはまし こそだ しえんじぎょうけいかく よこはまし けいかく  
(第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画／横浜市子ども計画)

そあん がいようばん  
素案 (やさしい概要版)

けいかくきかん れいわ ねんど れいわ ねんど  
計画期間：令和7 (2025) 年度～令和11 (2029) 年度

【パブリックコメント】みんなの<sup>いけん</sup>意見をきかせてください

ぼしゅうきかん  
募集期間

れいわ ねん がつ にち もく  
令和6 (2024) 年10月17日 (木) から  
れいわ ねん がつ にち きん  
令和6 (2024) 年11月15日 (金) まで



よこはまわくわくプランは、<sup>わかもの しゅやく</sup>こども・若者が主役となり、<sup>わかものひとり</sup>こども・若者一人ひとりの<sup>しあわ</sup>幸せと<sup>そだ</sup>育ちを<sup>おうえん</sup>応援する<sup>めざ</sup>まちを目指す  
ために、<sup>よこはまし</sup>横浜市が<sup>つく</sup>作る<sup>けいかく</sup>計画です。

# よこはまわくわくプランに、みんなの意見が必要です

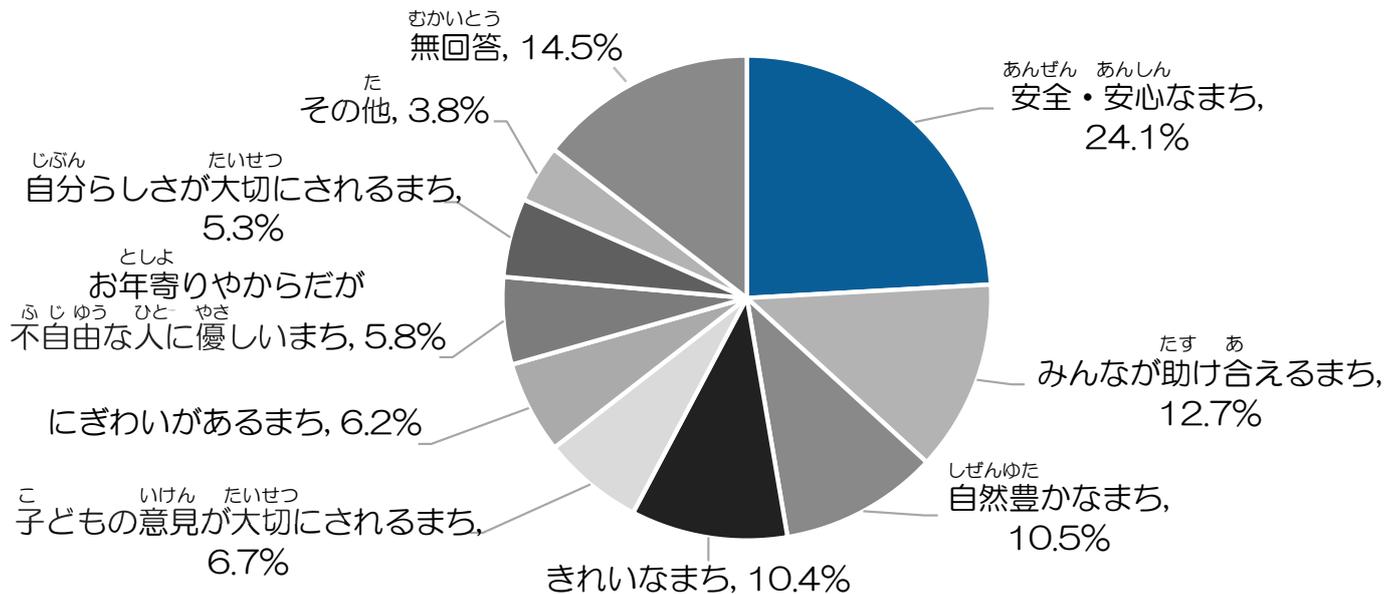
- こども・若者のみなさんは、一人ひとりがとても大切な存在です。そして、自分らしく幸せに成長でき、暮らせるように、社会全体で支えていくことがとても重要です。
- 2023年から始まった「こども基本法」や、「こども大綱」は、すべてのこどもや若者が、健やかに成長し、幸せな生活を送ることができる社会を目指しています。これを「こどもまんなか社会」と呼んでいます。
- 2025年からは、「横浜市こども・子育て基本条例」が始まります。この条例では、「こどもまんなか社会」を実現するために、横浜市のこどもや子育てについて、市全体で大切にすることや取り組むこと、こども・若者の声を聴き、取り組んで生かしていくことなどを定めています。
- これから作る「よこはまわくわくプラン」は、「こども、みんなが主役」の計画です。「よこはまわくわくプラン」での「こども」は、年齢が小さなこどもたちだけではなく、心と身体が育つ途中にある若者も含めています。
- こども、若者、大人など、みなさんの声を聴きながら作っていきます。みなさんの声をぜひ聴かせてください。



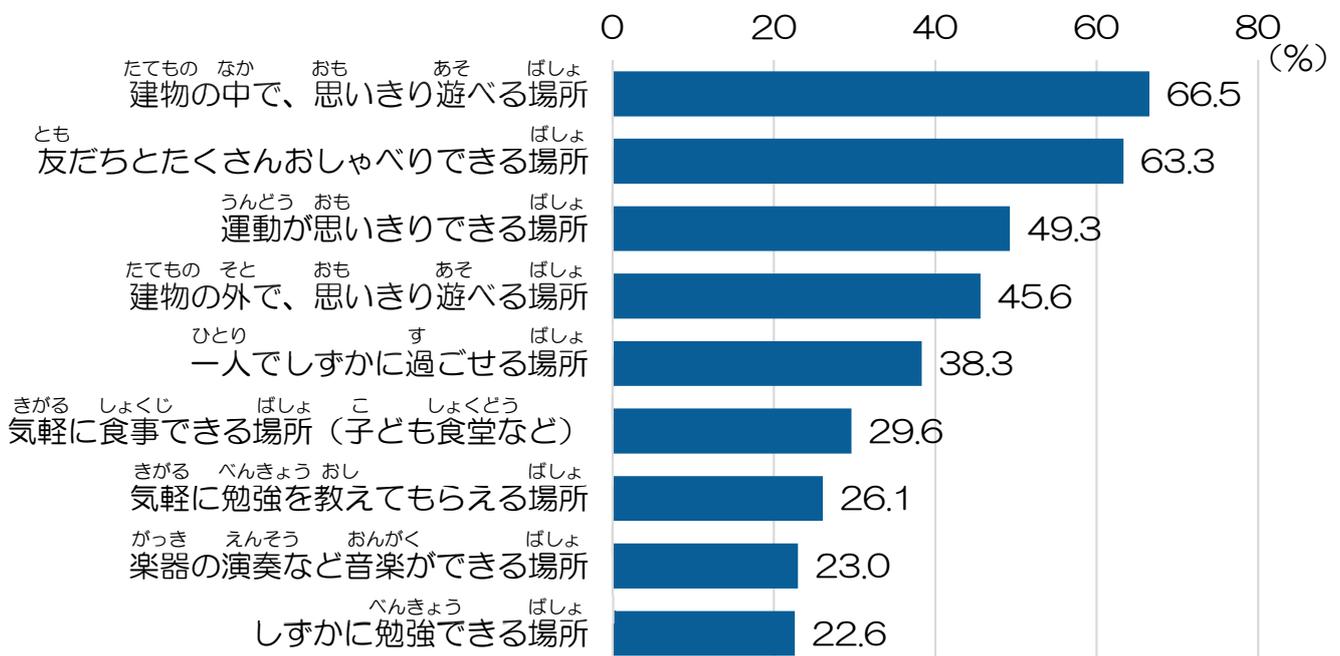
# 「よこはまわくわくプラン」に向けてのアンケート

横浜市では、こどもの意見を聴く取組の一つとして、「よこはまわくわくプラン」にこどもの意見を生かすために、2023年10月に小学4年生から6年生の約3万3千人を対象にアンケートを行いました。12,445人が回答に協力をしてくれました。アンケート結果の一部を紹介します。

Q あなたは、横浜市がどのようなまちになってほしいと思いますか。



Q あなたが、こんな場所があったらいいと思う場所を教えてください。



とりくみ

こそだ かてい ささ

ちいき

## 取組① こども・子育て家庭を支えるための地域のネットワーク

よこはまし  
「横浜市がどのようなまちになってほしいですか？」

- こどもたちの一番多かった意見は「安全・安心なまち」、  
よにん ひとり こた  
4人に1人が答えました。



「よこはまわくわくプラン」では、こんな形でみなさんの意見を生かします。

- 区役所には、いろいろな相談ができる「こども家庭センター」ができます。こどもたちが安心して生活できるように、こどもの身近にある組織や大人が協力して、こどもや子育て家庭を支えるネットワークを作っていきます。また、困ったときに相談できたり、必要な手助けが届くようにします。
- 身近な地域で、こどもたちが安心して過ごせるような環境を整えていきます。

たとえば、こんなことに取り組みでいきます

- SNS相談など、こどもたち自身が相談・支援につながるができる環境づくり
- 交通安全対策や、登下校時の見守り活動など



「あたらしいなと思う場所」

- 子どもの意見が多かったものは、「建物の中で、思いきり遊べる場所」「友だちとたくさんおしゃべりできる場所」「運動が思いきりできる場所」「建物の外で、思いきり遊べる場所」でした。

「よこはまわくわくプラン」では、こんな形でみなさんの意見を生かします。

- いろいろな年齢の子どもたちが、家や学校以外で、安心して過ごせる居場所を充実させていきます。また、いろいろな遊びや、新しい体験ができる機会を増やしていきます。

たとえば、こんな居場所・遊び場があります

● 青少年の地域活動拠点（7か所）

いろいろな年齢の子どもたちが交流し、様々な体験活動を行っています。



● 子ども食堂（約200か所）

町内会館やお店などで、みんなで楽しく食事ができる場所です。近所や地域の人たちが食事をつくって待っています。

● 公園（約2,700か所）

地域みんなが自由に楽しみ、子どもたちが外遊びできる身近な場所です。

● プレイパーク（22か所）

公園などで、木登りや泥んこ遊びなどの自由な遊びができます。プレイリーダーが自由な遊びを広げます。

● 図書館（18か所）

自由に本を読んで過ごしたり、おはなし会を楽しんだりすることができます。

中央図書館では、2025年度以降に、子どもたちが楽しく学べる「のげやま子ども図書館・子どもフック」を作っていきます。

どうして「子ども・若者の思いや声」を聴くの？

- 子ども・若者のみなさんは、一人ひとりが、地域やまちの大切な一員です。みんなの声を聴いて、地域やまちをより良くしていくことが横浜市役所の大事な役目です。
- みんなの身近な場所や取組で、子ども・若者のみなさんの思いや考えを聴いて、それを生かしていきたいと考えています。みんなの思ったことや、疑問など、ぜひ言葉にして伝えてみてください。様々な機会に声を届けてもらえるよう、横浜市全体で取り組んでいきます。

「よこはまわくわくプラン」では、こんな形でみなさんの意見を生かします。

- 子ども・若者の年齢やそれぞれの成長に合わせて、思いや声を伝えやすいよう工夫し、子どもたちが未来に希望を持って毎日を楽しく過ごすことができる横浜市になるように、その意見が大切に生かされる仕組みを作ります。

たとえば、こんなことに取り組んでいきます

- 青少年地域活動拠点でのヒアリングやワークショップ
- キッズクラブ・学童におけるアンケート
- イベントなどでの発表や話し合いなど



## 1 子ども・若者の人数

- 横浜市の18歳未満の人口は、10年間で約1割減って、2024年時点で約51万人です。
- 横浜市の出生数は減り続け、2022年時点で約2万3千人になっています。

## 2 子ども・若者を取りまく状況

- **インターネットのトラブル**：年齢が小さいうちからのインターネットやゲームの利用が増え、SNSなどのトラブル、長い時間使うことによる生活習慣の乱れ、犯罪被害などが心配されています。利用には注意が必要です。
- **夏の暑さ**：夏の暑さが長く厳しく、外遊びできる機会が減っています。
- **外国につながる子ども**：日本語のサポートが必要な子どもの人数は約4,200人※です。異なる文化や生活習慣を持つ人への理解が大切です。
- **障害**：障害者手帳を持っている人は増えています。放課後等デイサービスを使っている人は約1万人います。
- **不登校**：不登校の子どもの人数は約8,200人※です。
- **ひきこもり**：ひきこもり状態にある15～39歳の人数は約1万3千人と推定されています。
- **児童虐待**：相談に対応した件数は増えており、1年間で約1万4千件です。

※市立小・中・義務教育学校の人数

# 「よこはまわくわくプラン」をもっと知りたい人へ

## 1 「よこはまわくわくプラン」が目指す横浜の姿

すべてのこどものウェルビーイングを社会全体で支え、

未来を創ることも一人ひとりが、

自分の良さや可能性を發揮し、

豊かで幸せな生き方を切り拓く力、

共に温かい社会をつくり出していく力を

はぐくむことができるまち「よこはま」



### 「ウェルビーイングって？」

「ウェルビーイングは、今も将来も幸せに生きられること、毎日楽しく元気に過ごせることだよ。未来に夢を持つことや、たとえば、学校で友だちと遊んだり、家で家族と一緒にご飯を食べたりしてほっとすることも、ウェルビーイングの一部だよ。」

### 「自分の良さや可能性を發揮するって？」

「自分の好きなことや得意なことがあったら、それを大切にすることだよ。一人ひとりの良さがあるから、自分や友だちの好きを大切にしようね。」

### 「温かい社会って？」



「みんながお互いを思いやり、やさしい気持ちで見守ったり、助け合うことができる社会のことだよ。学校で友だちが困っていたら声をかけることも温かい社会を作る一部だよ。」

## 2 「よこはまわくわくプラン」を進める時のポイント

次の7つのポイントを大事にして、「よこはまわくわくプラン」を進めます。

- 1 こどもの視点に立ったサポート
- 2 すべてのこどもへのサポート
- 3 それぞれ成長に応じ、育ちや学びのつながりを大切にするサポート
- 4 こどもが持っている力を引き出すサポート
- 5 家庭で子育てする力を高めるためのサポート
- 6 子育て世代の「ゆとり」をつくり出すためのサポート
- 7 いろいろな担い手による社会全体でのサポート ～自助・共助・公助～

(自分でできること・みんなが協力してできること・役所や社会の仕組みですること)

## 3 「よこはまわくわくプラン」の進め方

- 横浜市のこども・子育て支援は、たくさんの地域の大人やボランティア、会社や事業所の人たちなどによって支えられています。関係する人たちと協力して、よこはまわくわくプランを進めていきます。
- また、横浜市の取組をわかりやすく発信していくとともに、こども・若者の思いや声を聴き、生かしていく取組も進めていきます。



## 4 とく ないよう プランで取り組む内容

2つの重点テーマ、3つの施策分野、9つの基本施策で取組を進めます。

重点テーマ1 全てのこどものウェルビーイングを支える(3~5ページで紹介)

### 施策分野1 全てのこども・子育て家庭への切れ目のない支援

#### 基本施策1 生まれる前から乳幼児期までの一貫した支援の充実

赤ちゃんを生み育てるための知識を広め、相談に応じます。安全・安心に妊娠・出産するためのサポートや、生まれる前から赤ちゃんが元気に育つためのサポートに取り組めます。

#### 基本施策2 地域における子育て支援の充実

親子が集まれる場所を増やし、小さなこどもが楽しく遊びいろいろな体験ができるようにします。保護者が気軽に相談できる場所を作り、地域ぐるみでこども・子育てを温かく見守ります。

#### 基本施策3 乳幼児期の保育・教育の充実と学齢期への円滑な接続

保育所や幼稚園がより良い場所となるように取り組めます。また、助けが必要なこどもへのサポートや、小学校に入学した後の生活につなげるためのサポートに取り組めます。

#### 基本施策4 学齢期から青年期までのこども・若者の育成施策の推進

小学校に入学してから大人になるまでのいろいろな居場所・遊び場づくりや、地域での見守りを進めます。こどもや若者の意見を大切にし、人権を守る取組を進めます。

#### 基本施策5 障害児・医療的ケア児等への支援の充実

障害のあるこどもや医療的ケアが必要なこどもへの相談やサポートを充実していきます。障害のある人とない人が共に暮らす社会を目指して、社会全体の障害への理解を広げます。



じゅうてん こそだ かてい じっかん う だ  
重点テーマⅡ 子育て家庭が実感できる「ゆとり」を生み出す

こそだ ほごしゃ じかん きも も せいかつ おやこ  
子育てをしている保護者が時間や気持ちにゆとりを持って生活できるようサポートして、親子  
えがお しあわ おうえん こま そうだん ひつよう じょうほう かんたん  
の笑顔と幸せを応援します。困ったときにいつでも相談できるようにし、必要な情報を簡単  
し  
に知ることができるようにします。

しさくぶんや たよう きょうぐう こそだ かてい しえん  
施策分野2 多様な境遇にあるこども・子育て家庭への支援

きほんしさく こんなん かか わかもの しえんしさく じゅうじつ  
基本施策6 困難を抱えやすいこども・若者への支援施策の充実

わかもの なや エスオーエス はや きづ ささ かんきょう つく がっこう ちいき ひと  
こども・若者の悩みやSOSに早く気づき、支える環境を作るとともに、学校や地域の人など  
きょうりょく こま なや よ そ わかもの きがる そうだん  
と協力して、困りごとや悩みに寄り添ってサポートします。また、こども・若者が気軽に相談  
ほしよ エスエヌエス まどぐち じゅうじつ  
できる場所やSNSの窓口を充実します。

きほんしさく おやかてい じりつしえん/ディーファイひがいしゃ こんなん もんだい かか じよせい しえん  
基本施策7 ひとり親家庭の自立支援/DV被害者や困難な問題を抱える女性への支援

おやかてい せいかつ しょうらい もくひょう がくしゅうしえん すす  
ひとり親家庭の生活をサポートし、将来の目標につながるようこどもの学習支援を進めま  
かてい ほうりょく う ひと あんしん く ささ  
す。家庭で暴力を受けた人やそのこどもが安心して暮らせるように支えます。

きほんしさく じどうぎゃくたいぼうしたいさく しゃかいてきよういく すいしん  
基本施策8 児童虐待防止対策と社会的養育の推進

ほうりょく ほうげん たら おも まも じどうそうだんじよ  
こどもが暴力や暴言などで辛い思いをしないように守るため、児童相談所などのサポートを  
きょうか じじょう かてい く あんてい せいかつ おく  
強化します。いろいろな事情があって家庭で暮らすことのできないこどもが安定した生活を送  
ささ とりくみ すす じぶん いけん い きかい つく  
れるよう支える取組を進め、こどもが自分の意見を言える機会を作ります。

しさくぶんや しゃかいぜんたい こそだ しえん  
施策分野3 社会全体でのこども・子育て支援

きほんしさく しゃかいぜんたい わかもの たいせつ ちいき すいしん  
基本施策9 社会全体でこども・若者を大切にする地域づくりの推進

はたら むり こそだ はたら かた すす きぎょう おうえん  
働きながら無理なく子育てできるように、いろいろな働き方を進める企業を応援するなど、  
しゃかいぜんたい こそだ ささ しゃかい む こそだ ちゅう ひと おうえん  
社会全体で子育てを支えます。こどもまんなか社会に向けて、こどもや子育て中の人を応援す  
とりくみ あんぜん あんしん ちいき つく いけん し とりくみ い  
る取組や、安全で安心な地域を作ります。また、こどもの意見を市の取組に生かします。

# よこはまわくわくプランへのパブリックコメント

## みんなの意見を募集しています

(1) 受付期間：2024年10月17日（木）～2024年11月15日（金）

(2) 意見の送り方は2種類です。

● パソコン・スマートフォンなどから送る場合

右のコードをカメラで読み込むか、下記のURLを開いて

意見を書いて送ってください。

<https://shinsei.city.yokohama.lg.jp/cu/141003/ea/residents/procedures/apply/45440b57-282f-4ecb-afc4-310a2f9f54d6/start>



● 紙に書いて、郵送する場合

〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10

横浜市子ども青少年局企画調整課 よこはまわくわくプラン担当宛て

名前・年代（10代未満、10代など）・お住まいの区と、「よこはまわくわくプラン」についての意見を書いてください。



(3) パブリックコメント結果

● みなさんからいただいた意見は、横浜市がプランにどのように反映していくのか、考え方をまとめて、12月末頃までに横浜市ホームページに公表します。

第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画

検索

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/org/kodomo/sonota/shingikai/kosodate/dai3kikeikaku.html>

### お問い合わせ・ご意見の提出先

横浜市子ども青少年局企画調整課

住所：〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10

電話：045-671-4281 電子メール：kd-kikaku@city.yokohama.jp

国民健康保険、後期高齢者医療制度における  
健康保険証の新規交付廃止後の医療機関への受診について【情報提供】

1 趣旨

本年12月2日で、国民健康保険、後期高齢者医療制度の紙（プラスチック）の健康保険証の新規交付が廃止されます。

そのため、医療機関への受診は、原則、マイナ保険証のご利用をお願いします。

なお、現行の健康保険証は有効期限（令和7年7月31日）まで使うことができます。

2 お願いしたいこと

【区連長】ご承知おきください。

【地区連長】地区連合定例会等で情報提供をお願いします。

【単位会長】単位会長あて資料を送付します。

定例会等で周知をお願いします。

3 情報提供内容

(1) 令和6年12月2日以降について

紙（プラスチック）の健康保険証の新規交付が廃止されますが、保険証は有効期限（令和7年7月31日）まで使うことができます。

(2) 令和7年8月1日以降について

マイナ保険証をお持ちでない方には、健康保険証の代わりとなる「資格確認書」を令和7年7月末までに送付します。

「資格確認書」を医療機関等に提示すれば、今までどおり受診することができます。

●(1)、(2)の内容について、会社の健康保険等については、ご加入の健康保険にご確認ください。

この機会にマイナ保険証への切り替えをお願いします。

【マイナ保険証の主なメリット】

- ・過去のお薬情報や健康診断の結果に基づき質の高い医療を受けられます。
- ・手続きなしで高額療養費の限度額を超える支払いが免除されます。
- ・確定申告時に医療費控除が簡単にできます。



マイナ保険証について  
(厚生労働省)

※マイナ保険証の利用には、マイナンバーカードの取得と健康保険証利用登録が必要です。

健康福祉局保険年金課（国民健康保険）  
担当 二瓶、稲川、日景  
電話 045-671-2422 /FAX 045-664-0403  
メール [kf-kokuho-skk@city.yokohama.jp](mailto:kf-kokuho-skk@city.yokohama.jp)  
健康福祉局医療援助課（後期高齢者医療）  
担当 杉田、藤井、伊藤  
電話 045-671-2409/FAX 045-664-0403  
メール [kf-iryoenjo@city.yokohama.jp](mailto:kf-iryoenjo@city.yokohama.jp)



# 【参考】マイナ保険証とは

## 1 マイナ保険証とは

お持ちのマイナンバーカードを保険証としても利用することです。

医療機関を受診するときには、保険証を提示する代わりに、マイナンバーカード（マイナ保険証）を医療機関等にある機械（カードリーダー）に読み取らせます。

なお、あらかじめ、自身で利用登録をする必要があります。



マイナンバーカードの申請についてはこちらでご確認ください。（横浜市HP）

## 2 利用登録のできる場所

以下の方法で利用登録をすることができます。

- ①医療機関・薬局の受付（カードリーダー）
- ②セブン銀行のATM（セブンイレブン店舗等）
- ③ご自身のスマートフォン、パソコンからマイナポータルで  
※裏面に①の方法で登録する方法をご案内しています。



利用登録方法はこちらでご確認ください。  
（厚生労働省HP）

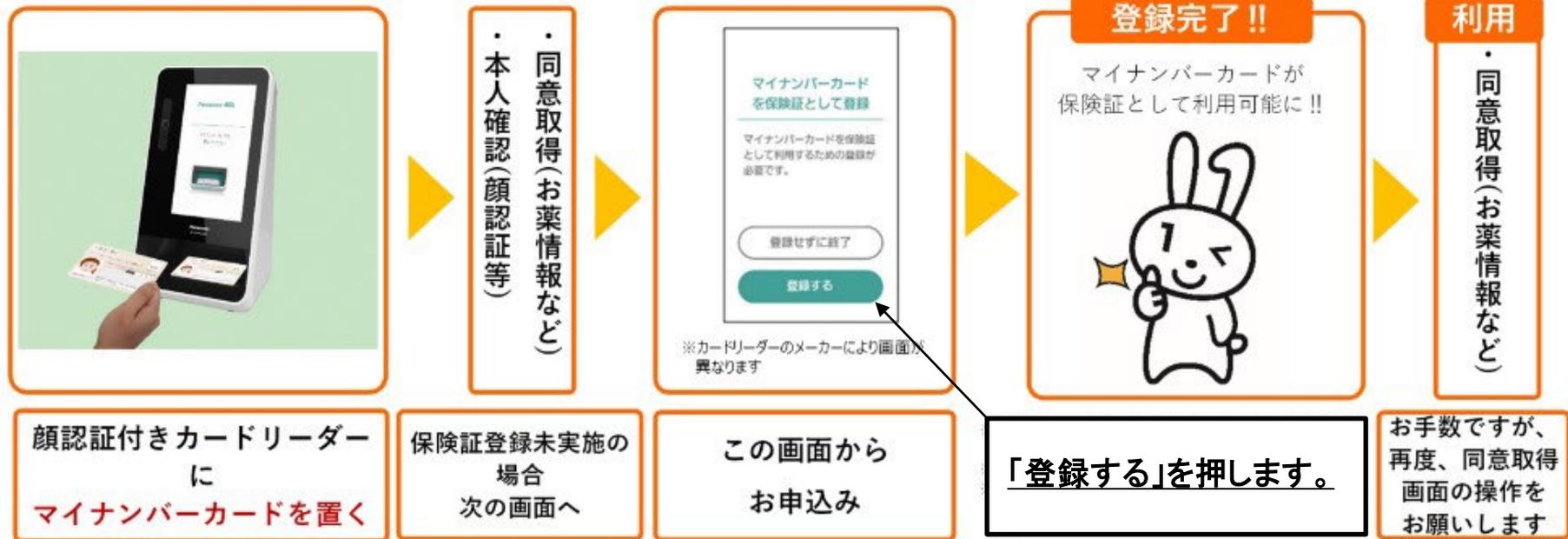
# マイナンバーカードの保険証利用の申込みは

## 医療機関・薬局の受付でもOK!!



当日その場でも  
いいのね♪

マイナンバーカードを医療機関・薬局にお持ちいただくだけで、健康保険証として利用するための申込み手続きや、実際に利用いただくことが可能です！



## 令和 6 年度 瀬谷区自治会町内会長永年在職者表彰受賞予定者について

令和 6 年度瀬谷区自治会町内会長永年在職者表彰について、受賞予定者の確認をお願いします。  
追加・訂正等は 11 月定例会までにお知らせください。

### 1 会長永年在職表彰受賞者 [敬称略]

#### (1) 在職 15 年 (市長表彰)

1	高岩 敏和	原中南自治会	阿久和北部連合自治会
2	佐藤 好徳	本郷第三自治会	本郷地区連合自治会
3	鈴木 博	橋戸原自治会	瀬谷第二地区連合自治会
4	須藤 光広	南栄自治会	南瀬谷自治連合会

#### (2) 在職 10 年 (市長感謝)

5	津田 智子	運上野自治会	阿久和北部連合自治会
6	加藤 章文	隣友会	三ツ境連合自治会
7	氏原 哲	五貫目町内会	瀬谷北部町内連合会
8	福田 征二	北新自治会	瀬谷第二地区連合自治会
9	青木 武夫	橋戸南自治会	瀬谷第二地区連合自治会
10	木村 精治	細谷戸ハイツ第二自治会	細谷戸連合町内会
11	田辺 亀久男	楽老峰自治会	瀬谷第四地区連合自治会

#### (3) 在職 5 年 (区長感謝)

12	川原 範之	県営阿久和団地第一自治会	阿久和南部連合自治会
13	荻原 孝久	清和会	三ツ境連合自治会
14	亀井 由香	上瀬谷住宅 1 棟自治会	瀬谷北部町内連合会
15	寺下 眞一郎	相鉄瀬谷団地自治会	瀬谷第二地区連合自治会
16	鈴切 由美子	二ツ橋中部自治会	瀬谷第四地区連合自治会
17	土谷 雅夫	東野自治会	瀬谷第四地区連合自治会
18	奥井 広信	サウスプラザ自治会	南瀬谷自治連合会
19	廣瀬 潔	宮沢町内会	宮沢連合自治会

## 2 開催日時

令和7年3月5日（水）16時～（予定）

## 3 会場

- (1) 永年在職者表彰式  
瀬谷公会堂
- (2) 感謝会  
区役所5階大会議室

## 4 その他

受賞者を含む自治会町内会長の皆様には、令和7年1月中旬にご案内状を送付します。

### 【担当】

瀬谷区地域振興課 鈴木・倉持  
電話：045-367-5691  
FAX：045-367-4423

区連会 10月説明資料  
令和6年10月17日  
地域振興課

自治会町内会長 各位

「自治会町内会新しい参加者を増やすためのアイデア NOTE」の  
発行について（お知らせ）

時下 ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃より瀬谷区政に御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございます。

このたび、地域活動の新たな参加者を増やすためのいくつかのアイデアをまとめたリーフレット、「自治会町内会新しい参加者を増やすためのアイデア NOTE」を発行いたしました。

ついでには、貴自治会町内会において、各役員の皆様に御一読いただきますよう5部送付させていただきます。（班回覧をしていただく必要はございません。）

また、当課では自治会町内会の課題解決のために専門家を派遣する「コーディネーター派遣制度」も実施しておりますので、御検討いただけますと幸いです。

なお、本リーフレットの追加送付を御希望される場合は、下記まで御一報いただけましたら、御希望の部数をお送りさせていただきます。

【コーディネーター派遣制度について】（詳細のホームページ）



（担当）瀬谷区地域振興課地域力推進担当  
小杉、海老澤、薄葉  
電話：045-367-5789  
FAX：045-367-4423

# 自治会町内会 新しい参加者を増やす↑ための アイデア NOTE



自治会町内会の活動は、地域の安全安心な暮らしを守る、とても重要なものです。

ですが、全国的に自治会町内会の加入率は年々減少しています。

これまで、多くの自治会町内会の役員の皆さまが、参加者を増やすために、  
様々な工夫や声かけ、話し合いなどをされてこられたことと思います。

このリーフレットでは、地域活動への新しい参加者を増やすための、  
いくつかのアイデアをご紹介します。

「自治会町内会の活動は大切なのに、どうして入ってくれないんだろう？」

「何とかしなきゃとは思いますが、まず何すればいいの？」

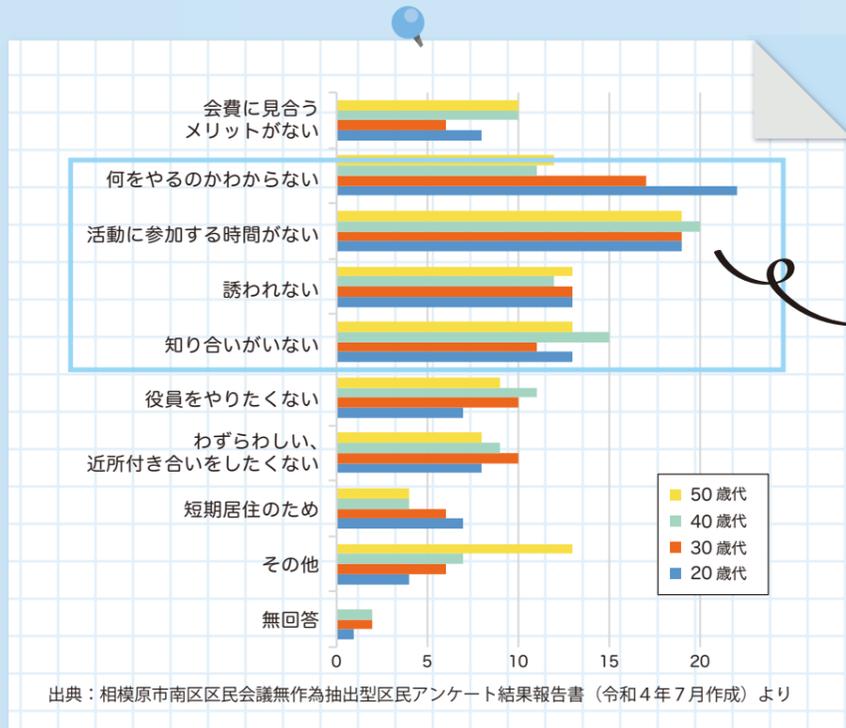
そんな思いをお持ちの役員の皆さま、ぜひご覧ください。

※次ページ以降、便宜上、「自治会町内会」を「自治会」と表記します。



# 自治会は地域にとって大切な活動なのに、 どうして参加してくれないの？

## 自治会に加入しない理由（近隣自治体の例）



理由 1  
自治会のことをよく知らない

理由 2  
時間がない

理由 3  
きっかけがない、参加しにくい

ライフスタイルの多様化により、自治会に対する意識も人それぞれです。様々な自治体で行われている、自治会未加入者向けのアンケートの結果等から、代表的な「自治会に加入しない理由（活動に参加しない理由）」を4つのモデルの視点からご紹介します。

※下記に示す例は、あくまで本リーフレットにおけるモデルです。統計等に基づく定義ではなく、また、特定の考え方を示すものでもありません。



### 若者

- 学生～新社会人
- 一人暮らし
- 将来的に卒業や結婚などで転居するかもしれない



### 子育て世代

- 乳幼児期の子どもがいる共働き世帯
- 家の外のことに目を向ける時間があまりとれない



### ファミリー

- 小学生以上の子どもがいる
- 学校やPTAを通じて地域との関わりはある程度ある



### 働き盛り

- 独身もしくは大人のみの世帯
- 子どもを通じた地域との接点がなく、地域情報が入りにくい

## 理由 1

## 自治会のことをよく知らない

自治会が行っている様々な活動の情報が入らず、これまでお祭り等のイベントにも参加するきっかけがなかったために、「自治会が何をしている団体なのかわからない」という人もいます。「よく知らない」からこそ、自治会活動に参加することに対して、漠然とした不安や抵抗感を持ってしまう人や、「自分には関係ない」「参加するメリットがない」と考えてしまう人もいるかもしれません。

もしかしたら、こんな風に思っているかも？



高齢者のための活動をしている団体なのかな？  
自分にはあまり関係ないかも？



一度入ったら抜けられないのかな…お手伝いすると、また色々頼まれそうで不安



自治会に参加すると、都合が悪い時に断りづらくなりそう



学校関係などのつながりもないし、地域活動に参加しなくても、支障はないだろう

## 理由 2

## 時間がない

共働き世帯の増加や育児・介護等の家庭ごとの事情、多様な働き方の普及等により、自治会活動に「時間を合わせられない」「時間を使えない」ことが、参加しない理由となっている人も多くいます。

もしかしたら、こんな風に思っているかも？



もっと短時間だったら学校やバイトの合間に参加できるんだけど



子どもの食事や寝かしつけの時間に被っているし、預けられる人もいない…曜日や時間帯を変えてくれたら参加できるのに



この総会、何時までなんだろう？もし時間が延びたら子どもの行事に間に合わないから、参加を見送ろうかな…



貴重な休みなので、自分の趣味や友だちと出かけたりすることに時間を使いたい

## 理由 3

## きっかけがない、参加しにくい

「参加してみたい」と思っても、きっかけがなかったり、ちょっとした気持ちのハードルがあったりして、はじめの一步を踏み出せない人もいます。

もしかしたら、こんな風に思っているかも？



同世代がいなくて参加しにくいな…友達と一緒にいいなら参加するのに



年上の方ばかりで、会議に出席するのも勇気がある、ちゃんと意見を聞いてもらえるかな



子どもと一緒に参加できる活動があればなあ



お祭りなどのイベントは子ども向けのものが多く、大人だけじゃ参加しにくい…



# 何とかしなければとは思うけど、まずは何したらいいの？

## STEP 1 間口を広げる・参加してもらおう より多くの人に「開かれた」自治会へ

### アイデア 自治会の活動や意義について、未加入者に伝える広報を試みませんか

- ◆「みんなで子どもを見守るまち」「誰もが安心して暮らせるまち」など自治会が活動を通じて実現したい「まちの姿」を盛り込んだ活動紹介チラシを未加入者へ配布してみるのはいかがでしょうか。
- ◆行事を周知する際は、実施する意義や目的、参加するメリット等を記載したチラシを配ると、理解や共感を得られやすくなり、参加につながりやすくなります。

**+α** デジタル機器に詳しい人がいたら、SNS やホームページでの発信も効果的です。

**例**  
安心して暮らせるまちづくりのため、防災訓練を実施します。  
参加することで、被災時に助け合える関係づくりができます。

### アイデア これまでの活動に、若い世代にも魅力的な要素をさらに加えてみませんか

- ◆例えば、自治会館で定期的実施しているサロンを、開催時間や対象を見直して「子育て中のパパママが気軽に集えるお茶会」にしてみると、子育て世代の自治会へのニーズの把握と、つながりづくりが同時に出来るかもしれません。

**+α** どんな内容がいいかわからない場合は、親族や知人など身近な若い人に聞いてみたり、地域の人にアンケートをとってみるのもいい方法です。



### アイデア 未加入者も参加できるイベントを検討してみませんか

- ◆自治会のイベントは会費で運営されているので、「加入後に参加してもらおうのが原則」という考えの方が多いと思います。ですが、イベントへの参加は、自治会を知るひとつのきっかけとなり、長い目で見れば加入者の増加につながるかもしれません。まずはイベントに参加してもらい、自治会の活動内容や雰囲気について知ってもらってから、加入を勧めてみませんか。

**+α** 公平性について懸念がある場合、例えば会費制イベントにして、会員は無料にするという手法もあります。また日頃の緑化活動に GREEN×EXPO 2027 に向けた内容をプラスするなど、住民の関心やトレンドに合わせた活動・イベントにすると、未加入者も参加しやすくなります。



## STEP 2

### 運営にちょこっと参加してもらおう

お試し参加や少しの工夫で参加のハードルをぐっと低く

### アイデア ちょこっとお手伝いを募ってみませんか

- ◆「この日だけ」「この作業だけ」なら手伝える、という人もいます。お祭り等のイベントに人手がほしい場合は、漠然とボランティアを募集するのではなく、準備や運営の作業を細分化・明確化した上で「これを手伝ってほしい」「こんなことができる人いませんか」と呼びかけると、手を挙げてくれる人が増えるかもしれません。
- ◆一回だけの「お試し参加」のような枠を設けると、気軽に参加しやすくなります。

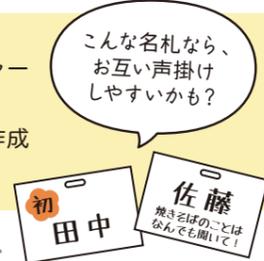
**+α** ・親子で参加できるお手伝いや、学生の専門性（保育やデザイン等）を活かしたお手伝いを募集してみてもいいかもしれません。  
・参加者同士が仲良くなってグループ化したら、企画や屋台の一つを任せてみる、という方法もあります。



### アイデア 気持ちよくお手伝いしてもらえる工夫を試みませんか

- ◆イベントのお手伝いに来てくれた人は、役員皆さんのような経験や知識はありません。せっかく来てくれても、「何をしたらいいかわからない」「誰に聞いたらいいかわからない」となってしまうと、とても残念です。力を存分に発揮してもらえよう工夫を、できることから試みませんか。

**例**  
・事前顔合わせ・レクチャー（資料共有や説明動画等）  
・当日の簡易マニュアル作成  
・全員名札をつける



### アイデア 若い世代の人も参加しやすい会議にしてみませんか

- ◆曜日や時間帯を見直す、短時間の開催を検討する、終了時間を厳守する、子ども連れ参加 OK にする等、できることから見直してみましょう。

**+α** 会議の日程が決まっている場合は、なるべく早くお知らせすると、仕事等の都合がつけやすいくかもしれません。

## STEP 3

### 楽しかったらまた参加してもらおう

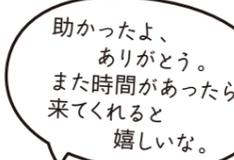
お手伝いから、いずれ担い手に…

### アイデア 「また手伝いに来たい」と思ってもらえる、やりがいを感じられる工夫を試みませんか

- ◆来場者に感想等を聞いて、運営スタッフで共有すると、「やってよかった」という気持ちになれるかもしれません。
- ◆打ち上げを開いて、感想や感謝の気持ちを共有するのもいいかもしれませんね。

**+α** 「できる人が、できる時に、できることだけ」「家庭や自分の事情を優先する」とみんなが思い合えば、活動を継続するハードルが下がります。

また来たくなる声掛けを



すぐにできそうなものはありましたか？  
 チェックをつけて、役員の皆さままで共有してみてください



チェック		すぐできそう	やりたいけど すぐには難しい	無理かもしれない
STEP 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>未加入者に自治会を知ってもらうための広報</li> <li>若い世代にとってさらに魅力的な活動への展開</li> <li>未加入者も参加できるイベントの開催</li> </ul>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
STEP 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>ちょこっとお手伝いの募集</li> <li>気持ちよくお手伝いしてもらえる工夫</li> <li>会議の開催時間等の見直し</li> </ul>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
STEP 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「また来たい」と思ってもらえる声掛けややりがいを感じてもらえる工夫</li> </ul>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

## コーディネーター派遣制度を利用してみませんか？

チェックがたくさん  
ついたなら

- ◆ 地域のお悩みに応じて、コーディネーター（専門家）を選定し派遣します。課題解決を図るためのアドバイスや話し合い等のサポートが受けられます。
- ◆ 派遣にかかる費用は区役所が負担します。

### 役員で話し合い

解決したい課題は何か、どんなアドバイスやサポートが欲しいのか、まずは役員の皆さんで話し合ってみましょう。

### 申込書を記入し、区役所に提出

- ・申込後に、具体的な時期や派遣方法（定例会にあわせて派遣、オンラインで…など）、どんなコーディネーターがいいかなどをお伺いします。

### 派遣実施

- ・コーディネーターの選定が終わったら、区役所からご連絡します。
- ・派遣当日まで、区役所が中心となって、コーディネーターとの調整を進めます。

## 派遣を受けた自治会の声

### 困っている内容

- ①自治会に若い世代の参加者を増やしたい。
- ②担い手不足の解決策を知りたい。

### 対応した内容

全国で、1000 を超える自治会町内会活性化支援の実績がある講師を派遣。講義後、付箋を用いて感想、質問等を募ったところ、参加人数を上回る付箋が集まり、その内容を踏まえて、さらに講師からのアドバイスを実施した。

### 派遣を受けた自治会のその後

町内を 10 ブロックに分け、会議で担い手不足などについて話し合っています。夏には福祉女性部と子ども会で子ども祭りを開催。当日限りのお手伝いを募り、若い人が参加してくれました。

まずは  
ご相談ください

コーディネーター派遣のお申込み・このリーフレットについてわからないこと

瀬谷区役所 地域振興課地域力推進担当

電話：367-5789 FAX：367-4423

メール：se-chiikiryouku@city.yokohama.jp



区連会 10 月説明資料  
令和 6 年 10 月 18 日  
地 域 振 興 課

自治会町内会長 各位

瀬谷区スポーツ推進委員連絡協議会発行  
「瀬谷区スポーツ推進委員だより第 34 号」の送付について

秋冷の候 ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃より瀬谷区政に御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございます。

瀬谷区スポーツ推進委員連絡協議会の広報誌である「瀬谷区スポーツ推進委員だより第 34 号」を発行いたしましたので、配布させていただきます。

ついては、貴自治会町内会において、各役員・各種団体等の皆様に御一読いただきますよう 5 部送付させていただきます。なお、ご希望の自治会町内会については、ご希望の部数をお送りさせていただきます。

送付物

- ・瀬谷区スポーツ推進委員だより第 34 号

(担当) 瀬谷区地域振興課  
区民協働推進係 松崎、矢口  
電話:045-367-5694/FAX:045-367-4423

令和6年度

# 初級 パラスポーツ指導員 養成講座

2024.6.22-23 / 6.29-30



今回パラスポーツ指導員の講習を受け、大人になってからの勉強は楽しいと改めて感じました。身体の障害だけでなく精神の障害などについても教えていただき、日頃の生活の中でも役に立つ事をたくさん学べました。聞き覚えがあってもあまり身近ではなかったパラスポーツですが、車椅子バスケットやポッチャなどをやらせていただけて、とても楽しい講習会でした。今まで障害のある方を見ても戸惑ってしまっていた私ですが、これからはスポーツだけでなく生活の中でも生かしていけたらと思います。(相沢地区 齊藤梨恵)

# さわやかスポーツ 体験講習会

2024.9.23



ナインボール: ボールを投げる動作は久しぶりなので最初はぎこちなかったのですが、何度か投げるうちに慣れてきました。この競技は子供から大人まで楽しめるので自治会のイベントでも実施したいと思います。ディスクゴルフ: ディスクがふらふら飛んでなかなか思うようにできませんでした。別グループでホールインワンがあったとのこと。こりゃすごい。モルック: 状況に応じてモルックの投げ方の工夫が要りそうですね。1種目毎の時間は物足りなさも感じましたが、限られた時間で初体験の3種目の競技経験ができたのは有意義でした。

(瀬谷北部地区 岩崎)

# 普通救命講習会

2024.9.23



瀬谷消防署のご指導で、胸骨圧迫による心肺蘇生法講習と講習用AED機器・人形を使っての実技講習を受講しました。「自らの安全確認」「反応を確認」「119番通報をしてAEDを手配」「普段どおりの呼吸があるか確認」「胸骨圧迫」「AEDの使用」の手順を覚えしました。「誰か来てください!人がたおれています!」と応援を求める事が大切です。気道異物の除去、止血法の講義も受けました。講習会で観たビデオの「AEDが広がりつつある今、必要なのは突然倒れた人に声をかける勇気」というテロップが身に染みました。皆様も機会があれば、ぜひ受講して下さい。

(三ツ境地区 小林)

# 編集後記

パリオリンピック、パラリンピックでスポーツのテレビ観戦をされた方も多かったと思います。一方、今年の夏は神奈川県で36回も熱中症警戒アラートが発令されたそうです。このような酷暑の中運動を控えられた方も多かったのではないのでしょうか。本誌が発行される秋、皆様の運動意識向上の助けになれば幸いです。(瀬谷北部地区 岩崎)

# Let's SPORT! VOL.34

瀬谷区スポーツ推進委員だより

発行日: 令和6年10月17日 発行: 瀬谷区スポーツ推進委員連絡協議会広報部 事務局: 瀬谷区地域振興課 Tel367-5694

第33回

# 瀬谷 ふるさと ウォーク

秋の恒例行事「瀬谷ふるさとウォーク大会」を開催します。今年にはゆめが丘を発着とする新コースが誕生! 3コースの中から自分に合ったコースを選んで、健康ウォークを楽しみませんか?

令和6年  
11月24日(日)

受付時間  
A/Bコース(三ツ橋公園) 8:15~8:55  
Cコース(ゆめが丘) 10:15~10:45

コース	集合場所	歩行距離	定員
A	三ツ境~サーフビレッジ	瀬谷区役所前二ツ橋公園	23Km 300人
B	NEW 三ツ境~ゆめが丘	瀬谷区役所前二ツ橋公園	8.5Km 200人
C	NEW ゆめが丘~サーフビレッジ	ゆめが丘(集合場所は参加証にてお知らせ)	15Km 200人



※小雨決行・荒天の場合は中止  
※定員に達した場合、当日の追加受付はできません。

- 選考方法: 先着(当日受付なし)
- 参加費: 無料
- 申込方法: **事前申込**

10月11日(金)から11月11日(月)までに、横浜市電子申請・届出サービス(左記のQRコード)から、または、代表者氏名、住所、電話番号、参加者全員の氏名、希望コースを記入の上、チラシ(※)裏面の申込書、はがきかFAXかEメールで問合せ先(市役所)へ



※チラシは区内地区センター、コミュニティスクール、瀬谷スポーツセンター、区役所(3階35番窓口)等で配布  
※参加者には、10月下旬以降、参加証を郵送します。

- 問合せ: 瀬谷区スポーツ推進委員連絡協議会 TEL:080-7605-3587(土日含む9時~17時)  
瀬谷区役所地域振興課区民協働推進係 TEL:367-5694/FAX:367-4423/  
MAIL:se-sports@city.yokohama.lg.jp

参加者  
大募集

参加費  
無料

瀬谷区スポーツ推進委員ホームページ <http://www.seya-sports.net>

瀬谷区スポ推

検索

主催: 瀬谷区スポーツ推進委員連絡協議会 共催: 瀬谷区 協力: 瀬谷スポーツセンター、瀬谷水緑の健康ウォークサポーター会

第33回

# 瀬谷 ふるさと ウォーク



## 大会コース紹介

A

### 三ツ境～サーフビレッジ

集合場所：瀬谷区役所前二ツ橋公園  
歩行距離：23 km  
定員：300人  
標準ゴール時間：14:00 頃

「瀬谷ふるさとウォーク」最大の特徴がこれ、23kmを踏破する江の島サーフビレッジコース！長距離ですが、参加者が一番多いコースです。ゴールスタッフが車で到着する前にゴールしている鉄人もいます。



B

### 三ツ境～ゆめが丘 NEW

集合場所：瀬谷区役所前二ツ橋公園  
歩行距離：8.5 km  
定員：200人  
標準ゴール時間：10:30 頃

あまり長く歩きたくないけれど、歩くのは好きなあなたにおすすめな二ツ橋公園～ゆめが丘への8.5kmコース。昨年は三ツ境～いづみ中央の7kmコースを歩いていた方、もう少し頑張って歩き、新しくできた商業施設「ゆめが丘ソラトス」で一息ついてから帰りませんか。

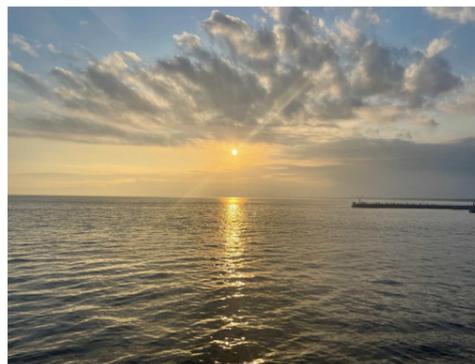


C

### ゆめが丘～サーフビレッジ NEW

集合場所：ゆめが丘（集合場所は参加証にてお知らせ）  
歩行距離：15 km  
定員：200人  
標準ゴール時間：14:00 頃

今話題のゆめが丘を出発し、サーフビレッジを目指す15kmコース。10時過ぎの出発のため、朝も少しゆっくりです。境川と引地川、二つの川沿いを歩いてゴールで海を眺めましょう。きれいな空もあなたを迎えます。



# 第32回ふるさとウォーク大会 参加者インタビュー

2023.11.26

少し涼しくなってきたこの時期には  
とても楽しめるイベントだと思います。



ふるさとウォークでは、川辺にカワセミを見つけたり、新しいお店を発見できたりと楽しいことばかりです。私は日頃から運動が好きなので三ツ境からサーフビレッジまで歩きますが、なかなか自分一人では歩こうと思えない方もスタートやゴールを変えて歩く距離を選べるので、お子様やお孫さん等みんなと一緒に歩けば楽しく運動できます。中にはベビーカーで参加する方もいて驚く事もあります。そしてサーフビレッジのゴールから見える富士山や江ノ島の景色もとても素敵です。少し涼しくなってきたこの時期にはとても楽しめるイベントだと思います。私は今年も参加する予定です。皆さんにもぜひ日頃歩かない道を歩いてみていただきたいです。（相沢地区 澤田）

必死の15時30分のゴールでした。  
なれど久々の達成感！



令和5年11月26日、小雨模様の日曜の朝、二ツ橋公園に集合してウォーク大会が30名くらいのグループ単位でスタートしました。散歩の習慣もない私が無謀にも江ノ島サーフビレッジゴールの23kmコースを単独で申し込みをしたのです。以前からポスターなどで大会の存在を知っていて興味はありました。加えてこの数年間、股関節痛が酷くなり、今のうちのチャレンジかと思っただけの申し込みでした。

最初の数キロは景色を眺めたり他の参加者とお話したり余裕で歩きました。半分を越えた六会日大前駅で、どうする？あと10km少し。ゴーゴーでした。しかしこれからが大変でした。足腰が重く動けなくなり少し歩いては休み、必死の15時30分のゴールでした。なれど久々の達成感！途中、前後に誰もいない本当に一人歩きの時が不安で、係の人を見てホッとする場面もあり、助かりました。完歩証は居間に飾ってあります。年金受給者になり、次の参加は夫を誘って年相応の湘南台14kmコースにします(笑)（相沢地区 平本君江）  
※第33回大会はコース変更があり、湘南台14kmコースはございません。

# 相 鉄 沿 線

瀬谷

緑園都市

駅前マルシェ

あっちも

こっちも

二俣川

星川

## 手作り製品が皆さんをお待ちしています

4か所同日開催！5日間合計約50の障害福祉事業所のお店が登場！

### 令和6年10月21日(月)～25日(金)

瀬谷駅前・緑園都市駅前・星川駅1階広場 11:00-14:00

ジョイナステラス二俣川 100周年サークル広場 11:00-15:00



きれい



かわいい



おいしい



楽しい



主催：旭 区地域自立支援協議会（担当：社会福祉法人訪問の家サポートセンター連 羽田 045-360-9778）

泉 区障害福祉自立支援協議会（担当：NPO 法人いずみの輪 和輪工房 宮地 045-410-6228）

瀬谷区障害者地域自立支援協議会（担当：NPO 法人大地の会 ステーション 小川 045-304-6202）

保土ヶ谷区障害者地域自立支援協議会（担当：NPO 法人ほどがやカルガモの会 武藤 045-342-0433）

共催：旭区、泉区、瀬谷区、保土ヶ谷区

協力：横浜市健康福祉局障害自立支援課



販売予定日程詳細は  
こちらよりご確認ください。⇒



# 駅前マルシェ 瀬谷区



10/21(月)~25(金)11:00~14:00

場所: 相鉄線 瀬谷駅 改札口前



21日  
(月)

## とんぐいピレッジ

とんぐいを使ったお茶・お菓子

## ベンチ

陶芸作品・廃油石鹸

22日  
(火)

## ユリのささえ

パン・クッキー・ラスク

## ワンステップ瀬谷

エコラフト製品  
キラキラたわし

23日  
(水)

## ともしび

鍋敷き・マグネット・ポーチ  
ヘアゴム

## ひらい

織製品・松ぼっくり製品  
マスコット

24日  
(木)

## 瀬谷福祉ホーム

織製品・生活雑貨・焼き菓子  
ビーズ製品

## 岡喜タント阿久和

コーヒードリップパック・雑貨

## 太陽

焼き菓子・廃油石鹸・紙すき製  
品・手作り小物

25日  
(金)

## ステーション

ステンシルふきん・巾着  
トートバッグ

## すぼる

フラワーアレンジメント

## ランチボックス

お弁当・ケーキ



# SUNSUNフェスタ2024

## 食

瀬谷の逸品

瀬谷の逸品  
人気店の食を堪能することができます！



## 験

瀬谷はーとの体験

福祉利用者様の様々な体験をすることができます。  
是非、勉強してみてください。



## 楽

お子様のための  
キッズコーナー  
お子様たちが楽しめるイベント  
をご用意しております！



## 社

福祉の力が集結！

地元の福祉事業所が  
集まり販売等で  
盛り上げてくれます！  
毎年ありがとうございます！



瀬谷はーとの  
ホームページは  
こちらから↓



2024年11月23日(土)  
10:00～15:00  
会場:せや活動ホーム太陽

◆横浜市瀬谷区三ツ境78-12 ☎045-362-8803

- \* 駐車場の確保が無い為、公共交通機関をご利用下さい。
- \* 三ツ境駅・瀬谷駅・細谷戸団地より送迎バスが出ます。
- \* 三ツ境駅より徒歩10分程度です。

## ステージ出演 LINEUP

地域の中高生が熱い演奏で  
盛り上げてくれます！



スペシャルゲスト登場！  
圧倒的パフォーマンス！！



津軽三味線・小山流師範。横浜市を中心に活動しています！！



紅花書道塾を主宰して31年。国内外の大きなイベントで書道パフォーマンスを多数披露

横浜・瀬谷の輪・和

社会福祉法人瀬谷はーと